

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2003-144252  
(P2003-144252A)

(43) 公開日 平成15年5月20日 (2003.5.20)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テームト* (参考)
A 4 7 B 87/00		A 4 7 B 87/00	3 B 0 5 3
13/00		13/00	Z 3 B 0 6 0
13/08		13/08	A 3 K 0 1 4
13/12		13/12	
83/04		83/04	

審査請求 未請求 請求項の数17 O L (全 26 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2001-352371(P2001-352371)

(22) 出願日 平成13年11月16日 (2001.11.16)

(71) 出願人 000001351

コクヨ株式会社

大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

(72) 発明者 桜井 淑敏

神奈川県横須賀市秋谷1-11-7 秋谷ク

ラブ I I-202 株式会社レーシング・ク

ラブ・インターナショナル内

(74) 代理人 100085338

弁理士 赤澤 一博 (外2名)

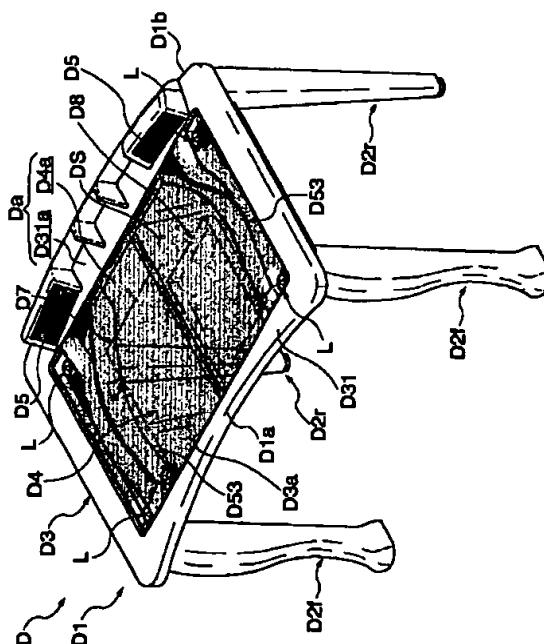
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 知的環境構成用家具

(57) 【要約】

【課題】 オフィスワーカーのクリエイティビリティを効果的に刺激し、これによる知的生産性の向上を通じて知的集約力と創造性を有効にバックアップする環境を構築できる家具を提供する。

【解決手段】 ボックス状をなす天板部 D 1 と、この天板部 D 1 を利用して構成された知的生産性向上手段とを具備し、知的生産性向上手段により天板部 D 1 近傍の定位に存する人間の知的集中力をアップさせ得るように構成した。



BEST AVAILABLE COPY

**【特許請求の範囲】**

【請求項1】ボックス状をなす天板部と、この天板部を利用して構成された知的生産性向上手段とを具備してなり、前記知的生産性向上手段により前記天板部近傍の定位置に存する人間の知的集中力をアップさせ得るように構成したことを特徴とする知的環境構成用家具。

【請求項2】知的生産性向上手段が、前記定位置に存する人間にハイテンション感覚を与えるための緊張感惹起手段と、前記定位置に存する人間にリラックス感覚を与えるためのリラックス感惹起手段とを具備してなり、前記ハイテンション感覚と前記リラックス感覚とにより作り出されるリズムを定位置に存する人間に対して継続的に惹起させ得るように構成してある請求項1記載の知的環境構成用家具。

【請求項3】天板部が、主要部を金属素材により構成されたものであり、緊張感惹起手段が、当該主要部のうち外面に表出させた金属素材の地肌部分である請求項2記載の知的環境構成用家具。

【請求項4】天板部が、主要部をアルミダイキャストにより構成されたものであり、緊張感惹起手段が、当該主要部のうち外面に直接又は薄い塗装を介して表出させたアルミダイキャストの錆肌部分である請求項2記載の知的環境構成用家具。

【請求項5】天板部が、自然界に存在する形態を模した自然回帰タイプの造形部分を一部に施したものであり、リラックス感惹起手段が、その自然回帰タイプの造形部分である請求項2記載の知的環境構成用家具。

【請求項6】天板部が、その周縁部に波の形態を模した曲線部分を造形したものであり、リラックス感惹起手段が、その波の形態を模して造形した曲線部分である請求項2記載の知的環境構成用家具。

【請求項7】天板部が、天板面に開口する空洞部分を備えた厚みを有するボックス状の天板本体と、この天板本体の開口に装着されて天板面の一部を形成する透光性を有した蓋体とを具備するものであり、緊張感惹起手段が、前記天板本体の空洞部分に配した発光体と、この発光体に電力を供給する電源装置とを備えてなり、前記電源装置に設けたスイッチ部の切り替えにより発光体を点灯又は消灯させることにより天板部近傍に位置する人間をハイテンション状態に導き得るようにしたものである請求項2記載の知的環境構成用家具。

【請求項8】天板部が、天板面に開口する空洞部分を備えた厚みを有するボックス状の天板本体と、この天板本体の開口に装着されて天板面の一部を形成する透光性を有した蓋体とを具備するものであり、リラックス感惹起手段が、前記天板本体の空洞部分に配した発光体と、この発光体に電力を供給する電源装置とを備えてなり、この発光体の点灯状態又は消灯状態を所望時間維持することにより天板部近傍に位置する人間をリラックス状態に導き得るようにしたものである請求項2又は7記載の知

的環境構成用家具。

【請求項9】天板部が、天板面に開口する空洞部分を備えた厚みを有するボックス状の天板本体と、この天板本体の開口に装着されて天板面の一部を形成する透光性を有した蓋体とを具備するものであり、緊張感惹起手段が、前記天板本体の空洞部分に配置され前記蓋体を介して外部から視認可能なメカニカル造形物である請求項2記載の知的環境構成用家具。

【請求項10】メカニカル造形物が、天板部をスピーカボックスとして機能させるための音響管である請求項9記載の知的環境構成用家具。

【請求項11】天板部が、天板面に開口する空洞部分を備えた厚みを有するボックス状の天板本体と、この天板本体の開口に装着されて天板面の一部を形成する透光性を有した蓋体とを具備するものであり、リラックス感惹起手段が、前記蓋体として選択された青系統のガラス板である請求項2、7、8、9又は10記載の知的環境構成用家具。

【請求項12】ガラス板が、地中海ブルー又はコードダジュールブルーである請求項11記載の知的環境構成用家具。

【請求項13】天板部が、空洞部分を備えた厚みを有するボックス状のものであって、緊張感惹起手段が、前記空洞部分にスピーカユニットを備えてなり、前記スピーカユニットから発せられる音響プログラムを順次異種類のものに切り替えることにより天板部近傍に位置する人間に緊張感を与え得るように構成したものである請求項2記載の知的環境構成用家具。

【請求項14】天板部が、空洞部分を備えた厚みを有するボックス状のものであって、リラックス感惹起手段が、前記空洞部分にスピーカユニットを備えてなり、前記スピーカユニットから発せられる特定種類の音響プログラムを所定時間持続させることにより天板部近傍の定位置に存する人間にリラックス感を与え得るように構成したものである請求項2記載の知的環境構成用家具。

【請求項15】天板部が、空洞部分を備えた厚みを有するボックス状のものであって、緊張感惹起手段及びリラックス感惹起手段が、前記空洞部分に備えたスピーカユニットを共有して、このスピーカユニットから複数種類の音響プログラムを所定時間毎に切り替えて出力させることにより天板部近傍の定位置に存する人間に緊張感とリラックス感とを交互に与え得るように構成したものである請求項2記載の知的環境構成用家具。

【請求項16】音響プログラムが、波の音、風の音、せせらぎ音、街の音等の外部音を収録したものである請求項13、14又は15記載の知的環境構成用家具。

【請求項17】天板部が、空洞部分を備えた厚みを有するボックス状のものであって、前記空洞部分にスピーカユニットを設けたものであり、緊張感惹起手段が、スピーカユニットの裏側の音を定位置に存する人間の腹部近

傍に導くためのバックロード形の音響管である請求項2記載の知的環境構成用家具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、オフィスやホーム等に配置してその知的生産性の向上に寄与し得る知的環境構成用家具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、オフィス等において知的環境を整えその活動を支援するために用いられる机やテーブル等の天板付き家具は、専ら便利な環境、見栄えの良い雰囲気、管理的な清潔空間などに主眼を置いて開発が行われて来た。この結果、例えば執務用あるいはミーティング用のものとしては、整然としたシステムチックな机やテーブル、或いは機能面を重視した無機質なキャビネットなどが主流をなしており、照明も平面的で白く明るいものが一般的となっている。また、マネジメント用のものとしては、重厚で威圧的な重役机などが代表的な類型をなしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、21世紀に足を踏み入れた今日、世界的な生産と需要のアンバランスに起因して企業間の競争はますますその激しさを増しており、また、高度情報化社会を背景に、消費者の消費活動の変化はグローバルスケールでスピードアップしつつある。

【0004】そのため、各企業は、こうした競争に追従できる体力、資本金力、スピードが要求されるとともに、熾烈な消耗戦を勝ち抜くための想像力が強く求められることが予想される。つまり、企業スタッフひとりひとりに「知的集約力と創造性」が問われ、それらをバックアップする知的生産の場がいかなる職種においても、きわめて重要なファクターとなりつつある。

【0005】ところが、上記のように「便利な環境」を目指して機能面や役割面を重点的に開発された従来の天板付き家具においては、PC設備やネット環境の高度な整備を通じて定常的な事務処理の効率化は飛躍的に進歩したものの、このような簡潔、清潔、機能重視の幾何学的な管理空間が、逆に人間の思考を画一化し、人間のクリエイティビリティの進歩を阻んできたといっても過言ではない。また、「見栄えのよい雰囲気」を重視する従来のオフィスにおいては、仕上げ技術の進歩により、表面的な美的空間やバーチャル的な環境づくりは前進したが、その薄っぺらさとリアリティの欠如に、人は創造力と直結した本来の生命力を低下させつつあり、確かな存在への飢餓感を強く感じている。さらに、「管理的な清潔空間」を目指す従来のオフィスにおいては、人の生命力を高めるのに不可欠な適度な緊張感とリラックス感との交錯がなく、自発的な活動や自由な発想を鼓舞することはできない。

【0006】以上のように、従来のオフィス空間を構成している机やテーブル等の天板付き家具は、ルーティンワークの効率化を図る上で極めて優れた役割をなしているが、今後あらゆる企業に要求される「知的集約力と創造性」をバックアップするための家具としては不向きである。

【0007】従来、ホームにおける書斎や家事室を構成している机やテーブル等の天板付き家具についても、前述したオフィスにおけると同様な傾向があり、家庭にクリエイティブな執務空間を構築したいという要望には応えることができないのが現状である。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明は、以上のような新たな課題に着目し、天板付き家具を改良工夫することにより、人間の創造性を回復し更には発展させることを目的とするものである。

【0009】そのために、本発明は、ボックス状をなす天板部と、この天板部を利用して構成された知的生産性向上手段とを具備する知的環境構成用家具を新たに構成して、前記知的生産性向上手段により前記天板部近傍の定位置に存する人間の知的集中力をアップさせ得るようにする。ここに言うボックス状とは、厚みのある構造体を意味し、必ずしも周囲が完全に包囲された中空箱状をなすものに限定されるものではない。

【0010】このようにすると、厚みのある天板部それ自体が存在感のある本物指向を醸成する上に、この天板部を利用して構成される知的生産性向上手段が人間に知的集中力をアップさせるための外的影響や刺激を与えるため、人間の心や体に働いて創造性の回復、更なる飛翔へと誘う誘因となり得るものである。特に、天板部は厚みを有したボックス状をなしているため、上記の如くそれ自体に知的生産性向上を刺激する作用があるだけでなく、当該天板部以外の知的生産性向上手段の構成部材等を仕込むスペースとしても有効に活用することが可能になる。

【0011】本発明の知的生産性向上手段の具体的な態様を実現するために、本発明者らは、種々の模索を行った。そして、知的生産性に繋がる知的集約力や創造性を極限にまで高めているものとして、F1グランプリの栄冠を勝ち取るようなチームや、地中海にアトリエを置くトップアーティストなどを子細に観察した。この結果、彼らは、創造力を高めるために、種々の環境に身を移しながら、無意識のうちに緊張感とリラックス感とをリズムカルに体感し、人間の生命力と美意識を自ら掻き立てていることを見出した。

【0012】そこで、知的生産性向上手段の具体的な実施の態様としては、前記定位置に存する人間にハイテンション感覚を与えるための緊張感惹起手段と、前記定位置に存する人間にリラックス感覚を与えるためのリラックス感惹起手段とを具備し、前記ハイテンション感覚と

前記リラックス感覚とにより作り出されるリズムを定位置に存する人間に対して継続的に惹起させ得るように構成することが有効であるとの認識に至った。

【0013】このような緊張感惹起とリラックス感とを定位置に存する人間に対して継続的に波のようにリズムカルに惹起させれば、やすらぎの中での集中力アップ、これによる知的生産性の向上を効果的に誘発することができる。しかも、天板部で執務を行う場合等は、利用者が定位置において継続的に天板部と対面するので、このようなリズムを継続的に惹起させ易いものとなる。

【0014】これらの緊張感惹起手段、リラックス感惹起手段は、主として人間の視覚、聴覚、触覚を刺激する手段を通じて実現することができる。

【0015】例えば、天板部が、主要部を金属素材により構成されたものである場合は、当該主要部のうち外面に表出する金属素材の地肌部分が緊張感惹起手段としての役割を果たす。その金属には、特にアルミダイキャストが有効である。アルミダイキャストの鋳肌は、張りぼて的な仕上がりとは異なり、本物感を醸成し、未来へ向かう飛翔感も誘発させるからである。この意味で、アルミダイキャストの鋳肌は外面に表出させておくことが望ましい。その態様としては、直接表出させる場合のほか、透明被膜を介して視認可能に表出させる態様、或いは薄い着色塗装を介して間接的に表出させる態様等が挙げられる。直接表出させる態様の場合に、鋳物の表面を削り取り、又は磨く加工を施すことを妨げるものではない。特に型割りした際に、パーティングラインに沿ってバリが残り、これを削り取って磨く必要が生じる場合があるが、このままでは素肌と磨いた箇所の質感・外観が異なって見栄えが悪くなるため、どこかしらを磨くと、質感・外観を整えるために他の必要な部分、場合によっては全体を磨く措置を施すことがあるが、これは鋳肌を外面に表出させる態様に含まれる。また、透明被膜や着色塗装は、型割りした後に直ぐに被着させる態様の他に、パーティングラインのバリを削り取った後に被着させる態様も含まれる。着色塗装の場合は、直接的に鋳肌が視認可能なものではないが、人間はある限度において素地表面の光沢や接触感等からでもアルミダイキャストたる質感を感得できるものであり、それが感じられる程度に塗装厚みや色が薄ければ、着色を施してもアルミダイキャスト製品の重厚感や本物感を有効に醸し出すことができる。アルミの素材の色に近い色のメタリック塗装は、上に言う薄い着色塗装の態様に含まれる。

【0016】また、天板部が、自然界に存在する形態を模した自然回帰タイプの造形部分を一部に施したものである場合は、その自然回帰形の造形部分がリラックス感惹起手段としての役割を果たす。自然界に存在する形態を模した自然回帰形の造形としては、大地や海、空、植物、動物などの形態を直接取り入れたもの、或いはこれらをモチーフとしたもの等が挙げられる。このような造

形は、定位置に存する者に気持ちの良い安らぎの感覚を覚えさせるからである。

【0017】特に、天板部においては、その周縁部に波の形態を模した曲線部分を採り入れることが有効である。

【0018】天板部が、天板面に開口する空洞部分を備えた厚みを有するボックス状の天板本体と、この天板本体の開口に装着されて天板面の一部を形成する透光性を有した蓋体とを具備する場合には、緊張感惹起手段を、前記天板本体の空洞部分に配した発光体と、この発光体に電力を供給する電源装置とから構成し、前記電源装置に設けたスイッチ部の切り替えにより発光体を点灯又は消灯させることにより天板部近傍に位置する人間をハイテンション状態に導き得るようにすることが有効である。

【0019】また、上記天板構成の場合に、リラックス感惹起手段を、前記天板本体の空洞部分に配した発光体と、この発光体に電力を供給する電源装置とから構成し、この発光体の点灯状態又は消灯状態を所望時間維持することにより天板部近傍に位置する人間をリラックス状態に導き得るようにすることも有効である。

【0020】さらに、上記の天板構成の場合に、緊張感惹起手段を、前記天板本体の空洞部分に配置され前記蓋体を介して外部から視認可能なメカニカル造形物とすることも効果的である。

【0021】このメカニカル造形物としては、天板部をスピーカボックスとして機能させるための音響管を好適な一例として挙げることができる。

【0022】また、上記の天板構成の場合に、蓋体として青系統のガラス板を選択し、このガラス板をリラックス感惹起手段として利用することも効果的である。

【0023】さらに、上記の天板構成の場合に、前記空洞部分にスピーカユニットを設けた場合には、緊張感惹起手段を、前記スピーカユニットから発せられる音響プログラムを順次異種類のものに切り替えることにより天板部近傍に位置する人間に緊張感を与え得るように構成することができる。

【0024】また、上記天板構成の場合に、リラックス感惹起手段を、前記スピーカユニットから発せられる特定種類の音響プログラムを所定時間持続させることにより天板部近傍の定位置に存する人間にリラックス感を与え得るように構成することも有効である。

【0025】勿論、上記スピーカユニットを共有し、このスピーカユニットから複数種類の音響プログラムを所定時間毎に切り替えて出力させることにより天板部近傍の定位置に存する人間に緊張感とリラックス感とを交互に与え得るように構成することがより効果的である。

【0026】特に、音響プログラムに、波の音、風の音、せせらぎ音、街の音等の外部音を収録したものを使用すると、天板部近傍の定位置に居ながらにして戸外の

自然を探索したかのようにその雰囲気存分に味わうことができるため、リラックス感惹起手段としての機能はより高められるものとなる。さらにまた、上記の天板構成において、前記空洞部分にスピーカユニットを備える場合に、スピーカユニットの裏側の音を定位置に存する人間の腹部近傍に導くためのバックロード形の音響管を設けた場合には、この音響感を緊張感惹起手段として利用することもできる。

【0027】

【発明の実施の形態】本発明の一実施形態について、図面を参照して説明する。

【0028】図1は、本発明の知的環境構成用家具を具現した天板付き家具である執務用のデスクD、収納家具C、会議用のテーブルT、前記デスクDに傍置されるサイドテーブルSを集合させたオフィス空間OAを示している。このオフィス空間OAは、それぞれ機能を特化した複数の小スペースに分けられており、具体的にはシンキングカフェTC、2つのワーキングスペースW1及びW2、ミーティングスペースMS、シアターTRなどに区成されている。そして、図示したようにワーキングスペースW1には、デスクD、収納家具S、サイドボードSが、ミーティングスペースMSには、テーブルTが配置されている。以下に、各実施形態に係る知的環境構成用家具について説明する。

<第1実施形態>まず、図1～図17に基づいて、本発明の知的環境構成用家具として構成されたデスクDを説明する。

【0029】図示したデスクDは、天板部D1とそれを直接支持する前後各一对の脚要素D2f、D2rとによって主として構成されている。天板部D1はさらに、天板部本体D3とそれに蓋設される蓋体部たるガラス板D4とから主として構成される。

【0030】以下、各部の詳細について説明する。

【0031】まず、天板部本体D3は、天板面Daの周縁部を形成する周囲水平壁D31と、この周囲水平壁D31の下面から垂下させた周囲立壁D32とを具備し、鋳肌を外面に表出させたアルミダイキャスト製の一体成形品である。これら周囲水平壁D31と周囲立壁D32とは、中央部を上下に貫通させて空洞部分たる内部空間DSを包囲する深みのあるボックス状の枠構造をなしており、天板部本体D3の上端に内部空間DSを開放するための開口部D3aが形成されるようにしている。また、その平面輪郭形状は、横長略矩形形状であって、使用端D1aは中央部をやや凹ませた部分円弧状にしており、反使用端D1bは中央部をやや膨出させた部分円弧状にしている。ここで、アルミダイキャストの鋳肌を外面に表出させる態様は、上述の通りである。そして、以下に説明するすべてのアルミダイキャスト製部材も、同様に鋳肌を表出させているが、その態様及び趣旨は上述のとおりである。天板部本体D3の各部の構成について

具体的に説明すると、まず、周囲立壁D32は、周囲水平壁D31の外縁からその全周に亘って垂下させた外壁要素D33と、外壁要素D33よりも内側において周囲水平壁D31から垂下する1又は複数の内立壁要素とから構成した多重壁構造をなすものである。内立壁要素は、それらのうち、最も内側に配され周囲水平壁D31の内縁から平面視略矩形形状をなすように垂下させたものを内壁要素D34としており、部分的にこれら外壁要素D33及び内壁要素D34間に形成したものを中間壁要素D35としている。

【0032】中間壁要素D35は、周囲水平壁D31の反使用端D1b側及び両側縁部において外壁要素D33と内壁要素D34との間に垂下させたもので、その周囲水平壁D31の下面から下端までの高さ寸法は外壁要素D33及び内壁要素D34のそれよりも約3倍弱であり、周囲立壁D32のうち最も大きい高さ寸法を有している。なお、外壁要素D33と内壁要素D34の高さ寸法は略同一である。反使用端D1b側においてこの中間壁要素D35は、外壁要素D33に沿って中央部を後方へ向けてやや膨出させた部分円弧状をなしている。また、中間壁要素D35には、使用端D1a側におけるコーナー部分で部分的に内側へL字形状に屈曲させて屈曲部D35aを形成する一方、反使用端側D1bにおけるコーナー部分で部分的に内側へ部分円弧状に湾曲させて湾曲部D35bを形成することによって天板部本体D3の剛性を高めており、これら屈曲部D35a、湾曲部D35bと外壁要素D33のコーナー部分との間に、下方に円筒状をなして突出させた脚要素取付部として機能する凸部分D36を形成している。この凸部分D36の具体的構成については後述する。

【0033】ここで、天板部本体D3の側縁部において、それぞれ前後に対をなす凸部分D36の中心を、前後に延びる中間壁要素D35よりも天板部本体D3の幅方向に内側の位置に設定している一方、内壁要素D34を前記凸部分D36の内側縁と略同一ないし若干内寄りの位置に設定している。さらに、天板部本体D3の反使用端D1b側においても同様に、後方へ湾曲して膨出する中間壁要素D35を左右に対をなす凸部分D36の中心よりもさらに奥方位置に設定している一方、内壁要素D34を前記凸部分D36の前縁と略同一ないし若干前方寄りの位置に設定している。また、天板部本体D3の使用端D1a側には、後述するようにこの天板部本体D3の内部空間DSに設けられる引出しD8やCDユニットD7を前方に露出させる目的のため、その両側縁部を除いて中間壁要素D35を設けていないが、内壁要素D34を左右に対をなす凸部分D36の中心と略同一ないし若干後方寄りの位置に設定している。このようにすることで、特に側縁部と反使用端D1b側においては、凸部分D36を前後又は左右に挟むように、前記外壁要素D33、中間壁要素D35及び内壁要素D34とそれら

に該当する周囲水平壁D31の部位とによって理想的な太い梁構造が形成される。また、使用端D1a側においても、外壁要素D33及び内壁要素D34とそれらに該当する周囲水平壁D31の部位とによって、機能性やデザイン性を損なわない程度に可能な限り太い梁構造が形成される。

【0034】前記開口部D3aは、内壁要素D34によって囲まれて形成されたもので、平面視、ガラス板D4と略同一ないし一回り大きい矩形状をなす。そしてその上端から前記ガラス板D4の略厚み分下がった位置に、内方に向かって延びる段部D3bが設けてあり、この段部D3bの上向き面にガラス板D4の周縁部下面を支持させるようにしている。なお、防振や密着性向上等の目的から、この上向き面とガラス板D4下面との間に、例えば透明樹脂シートを介在させるなどしてもよい。なお、本実施形態では、天板部本体D3の下面側において、内壁要素D34を前記段部D3bの先端及び基端に二重壁構造をなすように形成することで、天板部本体D3の剛性を向上するようにしている。

【0035】ガラス板D4は、等厚矩形状をなすもので、透光性を有し、本実施形態では地中海地方の空や海の色を連想させるような青色系の色、具体的にはいわゆる地中海ブルーやコートダジュールブルーに着色してある。なお、透光性を有するとは、光を通過させるものであればよく、半透明であってもよい。そして、このガラス板D4は、前記開口部D3aに上方から蓋設されることで、その上面D4aが前記周囲水平壁D31の上面D31aと略面一となり、それら両方で天板面Daを構成している。

【0036】また、使用端D1a側の周囲水平壁D31の下面には、その幅方向中央部において前記中間壁要素D35の下端と略同一高さ位置に下端を設定した細幅の垂下片D37を一体に設けており、この垂下片D37と反使用端D1b側の内壁要素D34における幅方向中央部の下端との間に、家具本体部の開口部D3aを前後に縦断する角柱状をなす中央棧部D38を前記垂下片及び内壁要素D34と一体に設けている。

【0037】ここで、前述した脚要素取付部たる凸部分D36、及び脚要素D2f、D2rについて説明する。

【0038】まず、凸部分D36は、周囲水平壁D31の下面から円筒状をなして下方に突出する筒状壁D361からなるものであり、その筒状壁D361の外周を下方に向かうほど直径が漸次小さくなるテーパ面D361aとしている。なお、前記筒状壁D361の内周も下方に向かうほど直径が漸次小さくなるテーパ形状をなしている。しかして筒状壁D361の外周は、外壁要素D33のうち屈曲又は湾曲するコーナー部分と中間壁要素D35のコーナー部分に形成した屈曲部D35a又は湾曲部D35bとを接続し外壁要素D33と略同一の高さ寸法を有する十文字形状のリップD36L上に連続して形成

されている。さらにこのリップD36Lは、筒状壁D361の内側においても内周に連続して形成されているが、この部位においてリップD36Lは筒状壁D361の外側の部位よりも周囲水平壁D31からの高さ寸法を大きく、具体的には筒状壁D361の高さ寸法よりも若干小さい寸法にしている。このように、これらリップD36Lによって脚要素取付部の補強を図っている。更に、筒状壁D361の後縁部側においては、その肉厚を他の部位よりも若干厚くしておき、アルミダイキャスト成形後に下方に開口するねじ孔D362を形成するようにしている。

【0039】他方、前後の脚要素D2f（前脚要素）、D2r（後脚要素）は、中空柱状をなす脚本体D2f1、D2r1と、この脚本体D2f1、D2r1の下面に取り付けたアジャスタD2Aとを具備するものであり、天板部本体D3の脚要素取付部たる凸部分D36にそれぞれ取り付けられる。脚本体D2f1、D2r1は、天板部本体D3同様、鋳肌を外面に表出させたアルミダイキャスト製の一体成形品であり、塗装を施さずにアルミの地肌が表出されるようにしている。具体的に、使用縁側及び反使用縁側に配置される各一对の前脚本体D2f1及び後脚本体D2r1は共通の構成として、前面側及び両側面側を覆って後方に内部空間を開放させる脚要素の主体となる周壁D2f2、D2r2と、周壁D2f2、D2r2の内側においてその上端から若干下方位置に設けられる上壁D2f3、D2r3と、周壁D2f2、D2r2の下端に設けられる底壁D2f4、D2r4と、前記上壁D2f3、D2r3よりも低位置において上壁D2f3、D2r3と底壁D2f4、D2r4との間の内部空間を上下に区画するように周壁D2f2、D2r2の内面のうち後端側の一部を残して略全周に亘って設けられる板状の水平リップD2f5、D2r5と、底壁D2f4、D2r4及び水平リップD2f5、D2r5間に亘って内部空間を左右に区画するように設けられる板状の垂直リップD2f6、D2r6とを有している。また、前記内部空間の下端部における奥行き方向中央部やや後方寄りの位置から先端部までは中実であり、アルミダイキャスト成形後にその部位及び底壁に下方に開口してアジャスタD2Aのねじ軸部D2A1を取り付けるためのねじ孔D2f7、D2r7を形成するようにしている。また、前脚本体D2f1と後脚本体D2r1との異なる構成として、特に前脚本体D2f1は、周壁D2f2を上端から下方に向けて膨出させ、高さ方向中央部やや下寄りの部位で一旦窄めるとともに、そこから下端に向けて再度膨出させるように形成することで、その表面を凹凸するように滑らかに湾曲させて生物的な形状を連想させるよう、例えば動物の脚を模した形状に構成してある。一方、後脚本体D2r1は、周壁D2r2を上端から下端に向けて漸次細くなるように形成してある。また、後脚本体D2r1の垂直リップD2r6

## 11

における高さ方向の異なる複数箇所（本実施形態では例えば3箇所）には、この垂直リブD2r6を部分的に厚肉にした円筒状の背板取付部D2r9を形成してあり、この背板取付部D2r9に、アルミダイキャスト製の板状をなす背板D2cをねじD2caを用いて取り付け、外観の向上を図っている。なお、背板D2cの上端は、水平リブD2r5の高さ位置に設定してあるため、水平リブD2r5と上壁D2r3との間の内部空間は後方へ開放されたままである。しかし、これら脚本体D2f1、D2r1には、周壁D2f2、D2r2の上端部と上壁D2f3、D2r3とによって囲繞される部位に、脚要素D2f、D2rの天板部本体D3に対する被取付部たる凹部分D2f8、D2r8を形成している。この凹部分D2f8、D2r8の内周は、下方に向かうにつれて直径が漸次小さくなるテーパ面D2f8a、D2r8aとなっており、具体的にはこのテーパ面D2f8a、D2r8aが、前記凸部分D36の外周のテーパ面D361aの傾斜角度等の形状に対応している。さらに、前記上壁D2f3、D2r3の中心から偏位した位置であって前記凸部分D36に形成されたねじ孔D362に対応する位置には、上下に貫通するねじ挿通孔D2f8b、D2r8bを形成している。

【0040】ここで、凸部分D36の外周におけるテーパ面D361aと凹部分D2f8、D2r8の内周におけるテーパ面D2f8a、D2r8aは、いずれも型抜き成形する際に必然的に生じる形状であるが、本実施形態ではこの型抜き成形により生じたテーパ形状をそのまま利用して前記凹部D2f8、D2r8分及び凸部分D36をテーパ係合させてその部位を凹凸結合部Dxとし、脚要素D2f、D2rと天板部D1とをがたなく確実に接合した上で、脚要素D2f、D2rの内部空間側から固定手段たるねじ部材D2Bを前記ねじ挿通孔D2f8b、D2r8b及びねじ孔D362に差し込んで、脚要素D2f、D2rを天板部D1に固定するようにしている。

【0041】しかし、本実施形態におけるデスクDは、前記天板部D3の反使用端側に配置した左右一対のスピーカユニットD5と、前記各スピーカユニットD5に対するバックキャビティ機能を発揮する左右一対をなす空気室部D52と、これら各スピーカユニットD5の背面側の音波を該天板部D3の使用端側に存する人間の腹部近傍に導く左右一対をなすバックロード形の音響管D53とを備えている。そして、この音響管D53によって天板部D1をスピーカボックスとして機能させるとともに、スピーカユニットD5から発せられる音響プログラムを順次異種類のものに切り替え、或いは特定種類の音響プログラムを所定時間維持するための後記のスイッチ部並びに図示しない電源装置が協働して、音響システムを構成している。

【0042】スピーカユニットD5は、音声電流が流れ

## 12

るコイル（図示せず）が一体に形成された横方向に長い矩形の振動板（図示せず）と、その振動板を挟み込むように配置される2枚の平板マグネット（図示せず）と、その振動板と平板マグネットとの間に挿入される緩衝材（図示せず）等とをサンドイッチ状に形成した横方向に細長い平面駆動型のものである。その基本的な動作原理は、振動板に一体に形成されたコイルに音声電流が流れると、そのコイルが平板マグネットの磁気の影響を受けフレミングの左手の法則に従って振動板とともに前後に振動し、その振動板の前面側と裏面側とに180度位相が異なる音波を放射するというものである。そして発される音波が、上下方向に比べ水平方向に強い指向性を有するようにしてある。

【0043】これらスピーカユニットD5は、前記起立壁体D311の各側縁部にユニット取付ブラケットD51を介して取り付けられて、その取り付けられたスピーカユニットD5の正面軸方向が着座した使用者Uの頭部に向くように、それぞれが若干上向きかつあい寄る方向に向くように設定してある。ユニット取付ブラケットD51は、背面側を前記起立壁体D311の側縁部前面から一部突出させて形成した第1ブラケット取付部D311aに嵌合させ、底面を周囲水平壁D31の上面を一部凹ませて形成した第2ブラケット取付部D311bに密接させて、下方からねじ止め固定される中空アルミダイキャスト製のものである。そして、その正面には、スピーカユニットD5を嵌合させる正面開口窓D51aを開口させる一方、底面には、前記正面開口窓D51aに内部空間D51sを介して連通する底面開口窓D51bを開口させている。なおこのユニット取付ブラケットD51は、取付状態において底板の上面が天板面3aと面一となるように設定してある。

【0044】空気室部D52は、スピーカユニットD5の下方かつ前記周囲水平壁D31の下方に位置づけたもので、空気室形成壁D52wにより囲繞してなるものである。この空気室形成壁D52wは、天板部本体3と一体にアルミダイキャスト成形してなるもので、その上壁は、第2ブラケット取付部近傍における前記周囲水平壁D31が兼ねている。この上壁（周囲水平壁D31）には上下に貫通する連通孔が設けてある。この連通孔は、前記ユニット取付ブラケットD51の底板により外観不能に閉塞されるが、内部では、前記連通孔、ユニット取付ブラケットD51の底面開口窓D51a、内部空間D51s、正面開口窓D51bを介して、前記空気室部D52がスピーカユニットD5の背面に連通し、スピーカユニットD5に対するバックキャビティ機能を有するように構成してある。

【0045】音響管D53は、前記空気室部D52の正面側に基端を開口させてその内部空間を空気室部D52に連通させる一方、天板部本体D3の使用端近傍に先端を開口させてその内部空間を外部に開放させたもので、

その内部空間が音波を伝達する音路部として機能するようにしてある。またこの音響管D53は、天板部本体D3の開口部における各側縁部下方にそれぞれ配置してあり、各音響管D53の基端と先端との間の中央部分は、途中で側方に向かって膨らむように湾曲させてある。

【0046】さらに詳述するとこの音響管D53は、アルミダイキャスト製の音響管本体D54と、この音響管本体D54に形成されている上部開口を閉塞する閉塞部材とを具備するものであり、その基端から所定長さの範囲において断面積が徐々に小さくなる先細り部分D54aと、この先細り部分D54aから所定長さの範囲において断面積が略一定である断面積一定部分D54bと、この断面積一定部分D54bから先端に至る範囲において断面積が徐々に拡大するホーン部分D54cとが滑らかに連続するラッパ形状をなす。

【0047】音響管本体D54は、その主要部を前記天板部本体D3と一体に成形したアルミダイキャスト製のものであり、反使用端側の内壁要素D34と、それに対向する使用端側の内壁要素D34との間に架け渡してある。しかしてその基端部は、前記反使用端側内壁要素D34を分断するように空気室形成壁D52に連続させてあり、なおかつその分断部分において前記内壁要素D34に接合させてある。またその先端部は、前記使用端側内壁要素D34に接合しつつその接合部分から内壁要素D34を分断して内壁要素D34の外方に突出し、外部空間に開口するように構成してある。さらに中央部の外側は、リップD39を介して周囲立壁D32における側方内壁要素D34に接合してある。一方、前記先細り部分D54aと断面積一定部分D54bとに相当する部位は、底壁部D541及び側壁部D542のみから構成して上方に開口する断面U字形状をなすようにする一方、前記ホーン部分D54cに相当する部位は、逆に上壁部D543及び側壁部D542のみから構成して下面が開口する断面逆U字形状にしている。そしてこの下面開口を閉塞するように、アルミダイキャスト製のボートアダプタDAD（図15参照）を取り付けて前記ホーン部分D54cを形成している。このホーン部分D54cにおける上壁D543は、先端に進むに連れ徐々に下降するようにしてあって、ホーン部分D54cが着座者Uの腹部に向くように設定してある。さらに、この音響管本体D54の内面は、アルミダイキャストで成形されたその地肌をペーパー等による表面仕上げをせず、表面に凹凸の残ったざらつきがあるままにしている。なお、この音響管本体D54の内面を、外観上の必要性に応じて削ったり塗装を施したりしてそのざらつきの度合いを変えたりするなど、任意のざらつきを与えて構成してもよい。

【0048】閉塞部材は、前記ガラス板D4がその役割を担う。すなわち、前記段部D3bの上向き面と、前記音響管本体D54におけるU字形状部分の上面とは同一高さに設定してあり、ガラス板D4を前記段部D3bに

支持させると、その下面が同時に前記音響管本体D54におけるU字形状部分の上面に密着するようにしてある。なお、密封性や密着性向上等の目的から、この上面とガラス板D4下面との間に、例えば透明樹脂層を介在させるなどしてもよい。

【0049】音響プログラムには、波の音、風の音、せせらぎ音、街の音等の外部音を収録したものが少なくとも含まれている。

【0050】以上のように構成されるデスクDにおいて、図17に示すように音響管開口部D53aが使用者Uの腹部に向けられているので、使用者Uは低音域を空気振動として直接受けとり（図中H）体感的に感じ取ることとなる。すなわち、音響管D53の先端部を腹部に向けた結果、耳のみで低音域を聴くだけでなく、腹部でも低音域を感じるることとなり、非常に低音感豊かな効果を奏することとなる。さらに、同じ構成の音響管D53を対で配置したことでその効果は倍増することとなる。

【0051】さらに、本実施形態では、各音響管本体D54の外側壁部D542において、先細り部分D54aとホーン部分D54cとの前後2箇所に、それぞれ発光体たる発光ダイオードLの配置部D6を外側方に突出させて前記外側壁部D542と一体に形成している。この配置部D6は、前記外側壁部D542から直接外側方へ延びるアーム部D61と、アーム部D61の先端部に設けられた円筒状の挿入部D62とを一体に有するものである。この挿入部D62は、内壁D62aが下方へ向かうにつれ内径が漸次小さくなるテーパ状をなしている。これに対して、発光ダイオードLは、樹脂製のソケット部L1、ソケット部L1の上端部に設けられる発光ダイオード本体（図示省略）及びそれを包囲して保護するガラス製又はプラスチック製のカバー部L2、ソケット部L1の下端部から延びる配線部L3からなる一般的な発光ダイオードLであり、本実施形態では透明のカバー部L2を有し、白色の光を発するものを採用している。このような発光ダイオードLは、上方から前記挿入部D62に挿入することでソケット部L1を部材の弾性変形によって前記挿入部D62の内壁に嵌合させた状態で着脱可能に取り付けられる。すなわち本実施形態において発光ダイオードLは、天板部本体D3の矩形の開口部D3aにおける隅部に合計4つ配置されることになる。

【0052】また、発光ダイオードLの配線部L3を案内させるために、前記音響管本体D54に配線案内路D63を形成している。この配線案内路D63は、音響管本体D54のうち先細り部分D54aと断面積一定部分D54bとに該当する外側壁部D542の下端をさらに下方へリブ状に延長させて外側壁部と一体に形成した外側垂下片D631と、底壁部D541における外側端部寄りの位置に前記外側垂下片D631に沿ってリブ状に延びるように底壁部D541に形成した内側垂下片D632と、底壁部D541の一部とから構成され、下方へ



開口して前後に延びる断面U字状をなしている。

【0053】一方、天板部本体D3の内部空間DSにおいて、前記中央棧部D38によって区画された左側の空間と右側の空間とは、前記スピーカユニットD5に音源を供給するCDユニットD7と、このデスクDの前面側に出し入れして使用される引出しD8とがそれぞれ配置される。これらを具体的に説明すると、左側の空間にCDユニットD7が設けられる。そのために音響管本体D54の断面積一定部分D54bに該当する内側壁部D543における前後2箇所に、先端部にねじ孔D72aを有する舌片部D72を形成するとともに、この舌片部D72と対向位置にある中央棧部D38の部位にもねじ孔D38aを形成し、これら前後左右の4箇所のねじ孔D72a、D38aに前記CDユニットD7をねじ止めにより取り付けようとしている。一方、右側の空間には引出しD8が設けられる。その引出しD8を出し入れ可能に支持するためのレールD81を取り付けるための構成として、右側の音響管本体D54の断面積一定部分D54bに該当する内側壁部D543における前後2箇所に、先端部にねじ孔D82aを有する舌片部D82を形成するとともに、この舌片部D82と対向位置にある中央棧部D38の部位にもねじ孔D38bを形成し、このねじ孔に前記レールD81をねじ止めにより取り付け、引出しD8をレールD81に保持させている。なお、CDユニットD7を支持する舌片部D72と引出しD8を支持する舌片部D82は、共に該当する内側壁部D543と一体に形成されており、相互に前後位置を違えて設けられている。

【0054】しかし、CDユニットD7の背面側からは、左右一對のスピーカユニットD5へ延びる配線（図示省略）と、4つの発光ダイオードLの配線部L3とが接続されている。特に発光ダイオードLの配線部L3は、音響管本体D54に形成された配線案内路D63を経て各挿入部D62へと延ばされている。また、本実施形態においてCDユニットD7の前面側に設けられた操作部D71は、CDの選曲や音量を調節する機能のみならず、発光ダイオードLを点灯又は消灯させる操作部D71としての機能も兼ね備えている。すなわち、CDユニットD7の電源を投入すると発光ダイオードLが発光する一方、CDユニットD7の電源を切ると発光ダイオードLが消灯するようになっている。発光ダイオードL、その操作部D71及び図示しない電源部は、照明機構を構成している。

【0055】本実施形態のデスクは、以上説明した構成からなるものであり、その拠り所とした基本的コンセプトは、ボックス状をなす天板部D1と、この天板部D1を利用して構成された知的生産性向上手段とにより、当該デスクを知的環境構成用家具として機能させて、前記知的生産性向上手段により前記天板部D1近傍の定位に存する人間の知的集中力をアップさせようとするもの

である。

【0056】すなわち、本実施形態の知的生産性向上手段は、一部の構成要素を定位に存する人間にハイテンション感覚を与えるための緊張感惹起手段として用い、他の一部の構成要素を定位に存する人間にリラックス感覚を与えるためのリラックス感惹起手段として用いるものであり、これらハイテンション感覚とリラックス感覚とにより作り出されるリズムを、定位に存する人間に対して継続的に惹起させようとするものである。

【0057】具体的には、本実施形態において緊張感惹起手段として採用した構成要素には、天板部D1の素材および形状、天板部D1の内部空間DSに設けた発光ダイオードLを主体とする照明機構、天板部D1の内部空間DSに仕込んだメカニカル造形物である音響管D53及び音響システムなどを挙げるができる。

【0058】天板部D1は、前述したとおり周囲水平壁D31、周囲立壁D32を含みアルミダイキャストにより厚みのあるボックス状に一体成形され、その鋳肌部分を外部に表出させたものである。アルミは金属であり、金属の地肌の有する視覚的あるいは触覚上の堅牢さ、未来感が、人間の神経を過敏に刺激するため、この地肌がボックス状の形態と相まって、天板部D1の近傍の定位に存する人間にハイテンション状態を引き起こす緊張感惹起手段としての役割を担い得る。しかも、アルミは鉄等に比べれば比較的柔らかく、暖かさを伴うため、ビリビリした緊張感ではなく、心地よさの中に感じられる適度な緊張感を惹起させることができる。特に、アルミダイキャストの場合、鋳肌は張りぼて的な仕上がりとは異なり、金属の塊を感じさせるため、本物感、本物指向を醸成するという点で本発明の知的生産性向上手段たり得る。すなわち、レーシングテクノロジーに育まれたアルミダイキャストは、レーシングエンジンはもちろんのこと、シャーシーからホイールに至るまで、最重要素材として使用されているが、本実施形態においてデスクの主要部をなすアルミダイキャスト製の部分、すなわち天板部本体D3及び脚本体D2f1、D2r1は、デスク全体の過半数を占めており、その鋳肌を外面に表出させているため、本物感に溢れた印象を看者に与えることが可能になる。そのため、このデスクによって、天板部D1の近傍の定位に存するものに高質感をもたらすことになり、スタッフのやる気と集中を引き出す効果的な緊張感惹起手段となり得る。

【0059】照明機構は、前述したとおり天板部本体D3の内部空間DSに配した発光ダイオードLと、この発光ダイオードLに電力を供給する図示しない電源装置とを備え、電源装置に発光ダイオードLへの給電状態を切り替えるスイッチ部たる操作部D71を設けた構成からなる。この操作部D71を切り替えて発光ダイオードLを点灯又は消灯させるとき、視野空間の定常状態が壊され、このときの変化はビビッドに天板部D1近傍の定位

置に存する者の心や頭脳に働いてこれらを活性化するため、このようなビビッドな変化の中にいる者にヒントを得、修正し、発想する力を誘発させることができ、スイッチングを伴う照明機構は緊張感惹起手段としての役割を担い得る。

【0060】メカニカル造形物には、前述した天板部D1をスピーカボックスとして機能させるための音響管D53がこれに該当する。音響管D53は、導波管としての機能を営むためにうねったラッパ状の形態をなしており、メカニカルでスタイリッシュな機能美に溢れ、自然のナチュラルな美しさとハイテクの未来的美しさがハーモナイズされて快い集中と高揚感を引き起こすため、緊張感惹起手段としての役割を担い得る。

【0061】音響システムは、前述したとおり天板部D1の内部空間DSにスピーカユニットD5を設けて、このスピーカユニットD5から発せられる音響プログラムを順次異種類のものに切り替えることができるようにしたものであり、プログラムの切り替え時に、定期的に変化を持ち込んで、天板部D1の近傍に位置する人間の心や頭脳にビビッドに働いてこれらを活性化するため、自発的創作活動に必要な停滞のない緊張感を惹起させる緊張感惹起手段としての機能を有する。

【0062】また、この音響システムは、スピーカユニットD5の裏側の音を定位位置に存する人間の腹部近傍に導くためのバックロード形の音響管D53を備えているが、腹部に特に低音が響けば、緊張感が刺激され、心地よいハイテンション状態に導けるため、このような機能面からしても、音響管D53は緊張感惹起手段の一つとなり得る。

【0063】これに対して、本実施形態においてリラックス感惹起手段として採用した構成要素には、天板部D1の造形部分、照明機構、ガラス板D4、音響システムなどを挙げることができる。

【0064】天板部D1は、前述したように、その周縁部の一つである使用端D1aに、特にこのデスクを横方向に隣接させた際に顕著に波形状を呈する曲線部分を造形したものである。このような造形は人間に自然界、自然美を感じさせ、これにより人間を自然に回帰させ、自然界の摂理に近づけさせるとともに、周辺環境を自然によって包み込むことで定位位置に存する者に気持ちの良い安らぎの感覚を覚えさせることができるため、かかる造形は本発明のリラックス感惹起手段としての機能を営み得る。特に、波の形態は生命誕生の起源である海への回帰を連想させるため、具体的かつ直接的に人間の感性に訴え得るものである。

【0065】照明機構は、上記のように緊張感惹起手段を構成するものではあるが、同時にリラックス感惹起手段としての機能をも持ち併せる。光も、点灯状態が維持されれば光の持つ本来の暖かさにより人間に生理的な安定をもたらすため、リラックス感を惹起させて集中力を

高める精神的土壌を形成する上で奏功する。消灯状態が持続する場合にもこれに準じた事が言える。

【0066】ガラス板D4は、前述したように青系統のものであり、川や海、空を連想させて開放的な雰囲気醸成する上に、生理的、心理的にも、精神を沈静化、安定化させる作用、集中力を促進させる作用なども営むため、リラックス感惹起手段として機能し得る。特に、青系統の色に、地中海ブルー又はコードグジュールブルーを採用すると、世界的に有名なリゾート地の開放感あふれる雰囲気を醸し出すことができるため、リラックス感惹起手段としての機能はより高められるものとなる。

【0067】音響システムは、上記のように緊張感惹起手段を構成するものではあるが、リラックス感惹起手段としての機能をも持ち併せる。一定の音響プログラムが持続すれば、音楽そのものの持つ本来の暖かさにより人間に生理的な安定をもたらすため、リラックス感を惹起させて集中力を高める精神的土壌を形成する上で奏功するからである。

【0068】特に、音響プログラムに、波の音、風の音、せせらぎ音、街の音等の外部音を収録したものが含まれており、天板部D1近傍の定位位置に居ながらにして戸外の自然を探索したかのようにその雰囲気を存分に味わうことができるため、リラックス感惹起手段としての機能はより高められるものとなる。

【0069】本実施形態の知的生産性向上手段は、以上説明した緊張感惹起手段及びリラックス感惹起手段を主体として構成されるものである。

【0070】このようにして、天板部D1を利用して構成される本実施形態の知的生産性向上手段は、人間に知的集中力をアップさせるための外的影響や刺激を与える上に、厚みのある天板部D1それ自体が存在感のある本物指向を醸成するため、人間の心や体に働いて創造性の回復、更なる飛翔へと誘う誘因を効果的に作り得るものとなる。特に、天板部D1で執務を行う場合等は、利用者が定位位置において継続的に天板部と対面するので、このようなリズムを継続的に惹起させ易い上に、天板部D1は厚みを有したボックス状をなしているため、それ自体に知的生産性向上を刺激するための本物指向を醸成する作用があるだけでなく、当該天板部D1以外の知的生産性向上手段の構成部材である照明機構、音響システム等を仕込むスペースとしても有効に活用することができ、知的生産性を刺激する環境を無理なく有効に整えることが可能になるという優れた効果を奏するものとなる。

【0071】加えて、以上のように緊張感惹起手段やリラックス感惹起手段を配備すると、机に就いた状態で、目線の移動に応じて、波状をなす天板部D1の使用端D1aからリラックス感を惹起され、アルミダイキャストの筋肉から緊張感を惹起され、青系統のガラス板D4からリラックス感を惹起され、その中に透けて見えるメカ

ニカル造形物たる音響管D53から緊張感を惹起されるといった具合に、天板部D1近傍の定位置に存する者がハイテンション状態とリラックス状態とを交互にリズムカルに引き出されるようになる。このような作用は、利用者が意図的に一定の操作を行った場合も同様で、照明機構の操作部D71を操作して発光ダイオードLを明滅させた際に緊張感が惹起され、その後に点灯状態や消灯状態が維持された際にリラックス感が惹起され、前記操作部D71を操作して音楽プログラムをON・OFFした際に緊張感が惹起され、その後に音楽プログラムが継続して持続している際にリラックス感が惹起されるといった具合に、自らをハイテンション状態とリラックス状態とに交互にリズムカルに引き込むことができる。

【0072】そして、このような緊張感とリラックス感とが定位置に存する人間に継続的に波のようにリズムカルに惹起されれば、やすらぎの中での集中力アップ、これによる知的生産性の向上を効果的に誘発することができ、オフィス空間においては「知的集約力と創造性」をバックアップするための天板付き家具として極めて有用なものになると同時に、ホームにおける書斎や家事室に適用した場合にも、家庭にクリエイティブな執務空間を有効に構築することが可能となる。

【0073】特に、天板部D1で執務を行う場合等は、利用者が定位置において継続的に天板部D1と対面するので、このようなリズムを継続的に惹起させ易いものとなる。

<第2実施形態>次に、図18～図25に基づいて、本発明の知的環境構成用家具として構成された収納家具Cについて説明する。

【0074】収納家具Cは、図18に示すように、内部に収納空間CSを有する収納家具本体C1と、前記収納家具本体C1の前面開口部C1aに両開き可能に設けた左右一対の扉C2とを具備している。

【0075】そして、本実施の形態では、図18及び図19に示すように、平面視略L字形をなす左右の構造体たる側背構造体C3を突き合わせて平面視略コ字形に接合することにより前記収納家具本体1の側面及び背面を囲う周壁C1bを形成し、その上端部側に天板C4を、下端部側に底板C5を取り付けるとともに、前記収納空間CS内に選択的に棚板C6を取り付けて前記収納家具本体C1を構成している。

【0076】以下、各部の具体的な構成について説明する。

【0077】扉C2は、図18、図20及び図23に示すように、その外縁部C2aを前記前面開口部C1aの開口側縁部に蝶番部材Chを介して開閉可能に取り付けてあり、前面の上端部側に把手C21を有している。また、この扉C2は、ガラス等の透光性を有する素材により形成してあり、特に本実施の形態では、地中海ブルー等の海や空を連想させるような青色系のガラス板により

構成している。なお、図面中では、この扉C2は、透光性を有しない内部が視認できないものとして図示している。さらに、図19は、蝶番部材Ch及び扉C2を取り付ける前の図とし、これら蝶番部材Ch及び扉C2を省略している。

【0078】側背構造体C3は、図19に示すように、互いに略直交する第1の面板部たる側板部C7と第2の面板部たる背板部C8とを一体にアルミダイキャストにより成形し、鋳肌を外面に表出させてなるものである。本実施の形態では、左右対称形状をなしている左右一対の側背構造体C3を備えており、これら両側背構造体C3の背板部C8同士を突き合わせて前記収納家具本体C1の周壁C1bを構成している。

【0079】側板部C7は、図20、図21、図23及び図24に示すように、鉛直方向に略沿って位置する起立壁C71と、この起立壁C71の上下縁部からそれぞれ略90度屈曲させて水平方向に略沿って延出している上壁C72及び底壁C73と、前記起立壁C71の前縁部から略90度屈曲させて延出した前壁C78とから構成されている。前記起立壁C71には、前後方向に並列的に設けた複数の側面視略矩形形状の開口C74が設けてあるとともに、その内面側において上下方向に沿った複数箇所に前記棚板C6を保持するための突起部C75が一体に突出してある。前記突起部C75は、前記起立壁C71の内面側において前後端部から突出した正面視略凸形状をなすものである。また、前記底壁C73には、一体に下方に突出した前後一対の脚C76が設けてあり、使用時、これら脚C76には、高さ調整用のアジャスタCaが取り付けられる。なお、前記側背構造体C3は、製造時に共通の型を使用することにより、図25に示すように、上端部C9aと下端部C9bとにそれぞれ脚C91、C92を有する少なくとも2体の中間構造体C91、C92を成形し、一方の中間構造体C91の上端部C9aに存在する脚C91を切除して左右何れか一方の側背構造体C3を得るとともに、他方の中間構造体C92の下端部C9bに存在する脚C92を切除して上下反転させることによって他方の側背構造体C3を得るようにしている。その際に、本実施の形態では、前記一方の中間構造体C91の上端部C9aに存在する脚C91及び他方の中間構造体C92の下端部C9bに存在する脚C92のそれぞれの基端部C91a、C92aを残した状態で先端部C91b、C92b側のみを切除し、前記基端部C91a、C92a側を天板C4を取り付ける際の天板支持部C77として利用するようにしている。なお、前記一方の中間構造体C9Aの下端部C9bに存在する脚C92及び他方の中間構造体C92の上端部C9aに存在する脚C91は、側背構造体C3の脚C76として利用される。

【0080】背板部C8は、図19、図21及び図22に示すように、鉛直方向に略沿って起立するもので、そ

の後面側において上下方向に並列的に設けた複数のリブC81を有しており、これらリブC81は、左右の側背構造体C3を付き合わせた場合に背面視略菱形形状をなす。さらに、この背板部C8は、その後面側において、上下方向2箇所に左右の側背構造体C3を突き合わせて接合する場合にネジ等の取付具Ct1を保持するための筒状の取付具保持部C82を有している。この取付具保持部C82は、具体的には、水平方向に略沿った孔部C82aを有するもので、前記左右の側背構造体C3を突き合わせた場合に、それぞれの側背構造体C3に設けた該取付具保持部C82同士が連続した筒状をなす。

【0081】天板C4は、アルミダイキャストにより成形され、鋳肌を外面に表出させたもので、図18及び図19に示すように、平面視略矩形形状で前縁部側を略部分円弧状に切り欠いた形状をなしている。この天板C4は、図23及び図24に示すように、前記側板部C7の上壁C72から突出した前記天板支持部C77に対応する位置に、下方に開口する凹部C41を有している。しかして、前記側背構造体C3の上面に取り付ける際には、前記凹部C41を前記天板支持部C77に上方から嵌め合わせ、前記側板部C7の上壁C72に設けた挿通孔C72aを介して下方から挿入したネジ等の取付具Ct2を対応位置に設けたネジ孔C42にネジ作用を利用して嵌め合わせて固定する。

【0082】底板C5は、アルミダイキャストにより成形され、鋳肌を外面に表出させたもので、図19に示すように、平面視略矩形形状で、面板部C51に前後方向に並列的に設けた複数の平面視略矩形形状の開口C52を有している。この底板C5は、前記側背構造体C3の側板部C7の起立壁C71に設けた挿通孔C71aを介して外方から挿入したネジ等の取付具Ct3を、その左右側面部C53の対応位置に設けたネジ孔C54にネジ作用を利用して嵌めることにより前記側背構造体C3に取り付けられる。

【0083】棚板C6は、図19に示すように、前記底板C5と同様の構成を有するものであるため、同一の構成を有する部分には同一の符号を付して、具体的な構成説明を省略するものである。この棚板C6は、前記背側構造体C3の側板部C7の内面側に設けた前記突起部C75上に載せ置かれて取り付けられる。

【0084】以上詳述した収納家具Cにおいて、緊張感惹起手段としては、当該収納家具Cの表面にアルミダイキャストの鋳肌を表出させた構成が挙げられる。すなわち、この収納家具Cは、側背構造体C3がアルミダイキャストによる一体成形品であり、天板C4及び底板C5もアルミダイキャスト製のものであって、その鋳肌を外面に表出させている。このように、収納家具Cの外観に現れる部分の過半数にアルミダイキャストの鋳肌を表出させることで、張りぼて的ではない本物感を醸成でき、周囲に存する者に高質感をもたらす点において、前述し

たデスクと同様であり、スタッフのやる気と集中を効果的に引き出すことができるものである。

【0085】また、リラックス感惹起手段としては、扉C2を構成する背系色のガラス板を採用している。背系色のガラス板は、前述したデスクのガラス板D4と同様、人間の生理や心理に働いて、精神を沈静化、安定化させ、リラックス状態を引き出す効果を伴うものである。

【0086】さらに、この収納家具Cを構成する天板C4の前端部は緩やかに湾曲しており、この収納家具Cを隣接配置した際に、その前端部が連なってリラックス感惹起手段として機能する波形状を呈するようにしてある。

【0087】そして、これら緊張感惹起手段及びリラックス感惹起手段を通じ、定位置に存する人間に継続的にハイテンション感覚とリラックス感覚とにより作り出されるリズムを惹起させることにより、やすらぎの中での集中力アップ、これによる知的生産性の向上を効果的に誘発することができ、オフィス空間においては「知的集約力と創造性」をバックアップするための天板付き家具として極めて有用なものになると同時に、ホームにおける書斎や家事室に適用した場合にも、家庭にクリエイティブな執務空間を有効に構築することが可能となる。

<第3実施形態>次に、図26～図34に基づいて、本発明の知的環境構成用家具として構成されたテーブルTを説明する。

【0088】テーブルTは、会議の際に複数人に使用されるものであって、天板部T1と、この天板部T1に直接取り付け天板部Tを直接支持する脚要素T2とを具備してなる。天板部T1はさらに、天板部本体T3と、この天板部本体T3の空洞部たる内部空間TSを閉止すべくその開口部T38に蓋設した蓋体部たるガラス板T4とを備えたボックス状をなすものである。

【0089】天板部本体T3は、天板面の周縁部を形成する周囲水平壁T31と、この周囲水平壁T31の下面から垂下させた周囲立壁T32とを有し、これらをアルミダイキャストにより一体成形し、鋳肌を外面に表出させたものである。これら周囲水平壁T31と周囲立壁T32とは、中央部を上下に貫通させて内部空間TSを包囲する深みのあるボックス状の枠構造をなしており、天板部本体T3の上端に内部空間TSを開放するための開口部T38が形成されるようにしている。また、周囲立壁T32の前後方向及び左右方向に架け渡した補強棧T34、T35を設けている。

【0090】周囲水平壁T31は、ガラス板T4の外周部分に位置してガラス板T4の上面4aとともに天板面を構成する天板外周面T31aを備えてなるものである。

【0091】周囲立壁T32は、外壁要素T321と内壁要素T322とからなる2重壁構造をなし、天板部本

## 23

体T3に剛性を与えている。外壁要素T321は、天板部本体T3の周縁に沿って下方に垂下させたもので、天板部T1の周縁部分に強度を付与するようにしたものである。内壁要素T322は、前記外壁要素T321の略3倍の周囲水平壁T31からの高さ寸法を有するように設けて、該内壁要素T322で囲まれた内部空間TSが深みを有する空間となるようにしたものである。また、内壁要素T322の4つのコーナー部分は、部分円弧状に湾曲させており、このコーナー部分と周囲水平壁T31のコーナー部分との間には、周囲水平壁T32よりもガラス板の厚み分だけ低いコーナー水平壁T311を形成している。すなわちこのコーナー水平壁T311は、上面をガラス板T4の支持面としたものであり、ガラス板T4の四隅を支持している。また、このコーナー水平壁T311の下面には、それぞれ天板部本体T3と一体をなし下方に突出する概略円筒状の脚要素取付部たる凸部分T37を形成している。

【0092】ここで、この凸部分T37の構成について具体的に説明する。この凸部分T37は、図33に示すように、周囲水平壁T31の下面から円筒状をなして下方に突出する筒状壁T371からなるものであり、その筒状壁T371の外周を下方に向かうほど直径が漸次小さくなるテーパ面T371aとしている。なお、前記筒状壁T371の内部は上方に開放されており、その内周T371bも下方に向かうほど直径が漸次小さくなるテーパ形状をなしている。しかして筒状壁T371の内周T371bには、十文字形状のリブT371cが筒状壁T371に連続して形成されており、これによって筒状壁T371の剛性を高めている。なお、このリブT371cの下端は、筒状壁T371の下端よりも若干高位置に設定されている。更に、筒状壁T371のうち十文字形状のリブT371cの一方を挟む対角位置において、その肉厚を他の部位よりも若干厚くしてあり、その部位にアルミダイキャスト成形後に下方に開口する一対のねじ孔T372を形成するようにしている。

【0093】前後方向の補強棧T34は、その上端にガラス板T4の下端に直接当たってガラス板T4を支持する支持面T34aを備え、内部空間Sを左右に略3分の1ずつ分割する位置に設けられたものである。

【0094】左右方向の補強棧T35は、内部空間TSの前後方向の略中央位置に設けられ、下方に開口するチャンネル状に形成されたものである前記開口部T38に蓋設されるガラス板T4は、等厚平板状をなし透光性を有するものである。このガラス板T4は、前記周囲水平壁T31の天板外面T31aの内縁に沿って設けた段部T36の上向き面にその周縁部T4bの下面を支持され、上面T4aが前記天板外面T31aと面一になるようにして設けられている。なお、この段部T36に防振用の樹脂によるシートを被覆するようにしてもよい。さらに、本実施の形態においても、該ガラス板T4に地

## 24

中海ブルーもしくはコートダジュールブルーのものを採用し、会議における過度の緊張を和らげる効果を生むようにしている。なお、ガラス板T4は、このような効果を得るために海や空を連想させる青色系の色であればよい。

【0095】脚要素T2は、中空柱状をなす脚本体T21と、この脚本体T21の下端に取り付けたアジャスタT22とを具備するものであり、天板部本体T3に設けた脚要素取付部たる4箇所の凸部分T37にそれぞれ取り付けられるものである。また、4本の脚要素T2は何れも同一構成のものである。

【0096】なお、本実施形態においては、ダイキャスト成形設備や成形工程を簡易化する等の目的から、図30、図31に示すように互いに同形状をなす2つの構造体T3aを接合することにより前記天板部本体T3を形成するようにしている。詳述すれば各構造体T3aの側端には、図32に示すように構造体T3aの側面視輪郭形状と略合致する側端面形状を有した前後方向に延びる接合壁T33がそれぞれ設けてあり、その側端面を接合面T33aとしている。具体的にこの接合面T33aは、中央部が上下に厚く、前後両端部が中央部より上下に薄いハットを逆さまにしたような形状をなす。そして、前後上下にわたってほぼ面一なこの接合面T33a同士を押圧密着させることにより構造体T3a同士を接合している。各接合面T33aには、相互に離間した3箇所以上の部位に、ピン挿入孔T331を設けることによって両構造体T3aを位置決めするパイブノックPKをそれぞれ配設して、各パイブノックPK内に挿通させたボルト（図示省略）を用いて緊締結合するようにしている。

【0097】ここで本実施形態では、天板部T1の長手方向の対向する2辺を使用縁T1aとし、この両使用縁T1aに外方に膨らむ2つの膨出部たる第1の膨出部T7と、これら第1の膨出部T7間に位置し内方に凹陷する凹陷部T8とを設けている。そして、さらに短手方向の対向する2辺を使用縁T1bとして、この両使用縁T1bに第2の膨出部T9を設けている。

【0098】第1の膨出部T7は、前記周囲水平壁T31を使用縁T1aから外方に平面視部分円弧状をなし、会議中に資料を広げたり、またノート型パーソナルコンピュータ（以下ノート型パソコンと略す）を置くために充分な使用領域が確保できるような大きさとなるように膨出させたものである。そして、本実施形態では、天板部T1のコーナ部分に隣接するように配置して、凹陷部T8より優先的に使用するようにしている。このコーナ部分の形状は、脚取付部たる凸部分T37の上端部分と同心の部分円弧状に形成されたもので、前記第1の膨出部T7に連続形状をなしてデザイン的に良好なものとするとともに、天板部T1のコーナー部分に強度を付与するようにしたものである。凹陷部T8は、長手方向の前後

の使用縁T1aにそれぞれ1つずつ形成したもので、前記周囲水平壁T31を使用縁T1aから平面視部分円弧状をなし、着座者が椅子ごと該凹陥部T8に嵌まり込める大きさとなるように凹陥させたものである。そして、この凹陥部T8は、前記第1の膨出部T7と連続した波形状をなしている。第2の膨出部T9は、周囲水平壁T31を使用縁T1bから第1の膨出部T7と同形状に膨出させて形成したもので、前後のコナ部分に隣接している。また、この第2の膨出部T9は、前記コナ部分によって、前記第1の膨出部T7と連続的な波形状をなしている。したがって、発光ダイオード配置部T352に配される発光体たる発光ダイオードLは、前後方向の中央に位置する補強棧T35の両端から所定距離内側の範囲内に設けて、前記第1の膨出部T7、凹陥部T8、第2の膨出部T9のいずれに着座した場合においても、使用領域の周縁部に位置していることになる。

【0099】脚本体T21は、天板部本体T3同様、アルミダイキャスト製の一体成形品であり、塗装を施さずにアルミの地肌が出されるようにしている。具体的に、これら脚本体T21は、斜め後方（前脚）又は斜め前方（後脚）に開口する中空の周壁T212と、周壁T212の内側においてその上端から若干下方位置に設けられる上壁T213と、周壁T212の下端に設けられる底壁T215と、前記上壁T213よりも定位置において上壁T213と底壁T215との間の内部空間を上下に区画するように周壁T212の内面のうち開口端側の一部を残して略全周に亘って設けられる板状の水平リブT214と、底壁T215及び水平リブT214間に亘って内部空間を左右に区画するように設けられる板状の垂直リブT216とを有している。また、前記内部空間の下端部における奥行き方向中央部やや反開口端寄りの位置から先端部までは中実であり、アルミダイキャスト成形後にその部位及び底壁T215に下方に開口してアジャスタT22のねじ軸部T22aを取り付けるためのねじ孔T217を形成するようにしている。特に本実施形態では、脚本体T21は、周壁T212を下方に向かうにつれて漸次反開口端側へ傾斜しつつ徐々に細くなる形状にしているが、これは使用者に生物的な形状を連想させるよう、例えば動物の脚を模した形状に構成してある。また、脚本体T21の垂直リブT216における高さ方向の異なる複数箇所（本実施形態では例えば3箇所）には、この垂直リブT216を部分的に厚肉にした円筒状の背板取付部T218を形成してあり、この背板取付部T218に、アルミダイキャスト製の板状をなし脚本体T21の開口端側の形状に沿って湾曲する背板T23をねじT24により取り付けて、外観の向上を図っている。なお、背板T23の上端は、水平リブT214の高さ位置に設定してあるため、水平リブT214と上壁T213との間の内部空間は後方へ開放されたままであり、この空間を通じてねじT24を取り付ける作業を

行い得るようにしている。しかして、これら脚要素T2には、周壁T212の上端部と上壁T213とによって囲繞される部位に、脚要素T2の天板部本体T3に対する被取付部たる凹部分T211を形成している。この凹部分T211の内周は、下方に向かうにつれて直径が漸次小さくなるテーパ面T211aとなっており、具体的にはこのテーパ面T211aが、前記凸部分T37の外周のテーパ面T371aの傾斜角度等の形状に対応している。さらに、この上壁T213の中心から偏位した位置であって前記凸部分T37に形成されたねじ孔T372に対応する位置には、上下に貫通するねじ挿通孔T219を形成している。

【0100】ここで、凸部分T37の外周におけるテーパ面T371aと凹部分T211の内周におけるテーパ面T211aは、いずれも型抜き成形する際に必然的に生じる形状であるが、本実施形態ではこの型抜き成形により生じたテーパ形状をそのまま利用して前記凸部分T37及び凹部分T211をテーパ結合させ、脚要素T2と天板部T1とをがたなく確実に接合した上で、脚要素T2の内部空間側から固定手段たるねじ部材T25を前記ねじ挿通孔T218及びねじ孔T372に差し込んで、脚要素T2と天板部T1とを固定するようにしている。また、本実施の形態においては、天板部T1を構成する天板部本体T3の内部空間TSに発光体たる発光ダイオードLを配している。具体的には、前記補強棧T35の複数箇所に、上下に貫通する孔からなる発光ダイオードLの配置部352を設けて、この配置部352に、発光ダイオードLを着脱可能に取り付けている。

【0101】発光ダイオードLは、上記デスクDで用いたものと同様のものであり、ソケット部L1、発光ダイオード本体、カバー部L2、配線部L3から構成されている。そして、電源装置を兼ねた操作部たる制御ボックスTCを補強棧T35の左右両端のうちどちらか一方に設けて、発光ダイオードLの点灯又は消灯をコントロールするようにしている。この制御ボックスTCは、発光ダイオードLの点灯及び消灯を指示するオン・オフスイッチSTを具備してなるものである。そして、補強棧T35の左右端に下向きコ字状をなす折り曲げ部分を形成するとともに内壁要素T322を開口させて設けた制御ボックス取付部に取り付けられたものである。本実施形態では、この前記制御ボックスTCは、発光ダイオードLの点灯、消灯のみをコントロールするものであるが、さらに、光量を調節したり、周期的に点灯するように調節するようなものとしてもよい。そして、前記溝T351が発光ダイオードLの配線案内路として機能し、制御ボックスTCから各発光ダイオードLへ延びる配線部L3が、この溝T351内に通されることになる。発光ダイオードL及び電源装置を兼ねた操作部たる制御ボックスTCは、照明機構を構成している。

【0102】本実施形態のテーブルTは、以上説明した

構成からなるものであり、その拠り所とした基本的コンセプトは、前記デスクD等と同様に、ボックス状をなす天板部T1と、この天板部T1を利用して構成された知的生産性向上手段とにより、当該テーブルを知的環境構成用家具として機能させて、前記知的生産性向上手段により前記天板部T1近傍の定位位置に存する人間の知的集中力をアップさせようとするものである。

【0103】すなわち、本実施形態の知的生産性向上手段は、デスクDと同様、一部の構成要素を定位位置に存する人間にハイテンション感覚を与えるための緊張感惹起手段とし、他の一部の構成要素を定位位置に存する人間にリラックス感覚を与えるためのリラックス感惹起手段とするものであり、これらハイテンション感覚とリラックス感覚とにより作り出されるリズムを、定位位置に存する人間に対して継続的に惹起させようとするものである。

【0104】具体的には、本実施形態において緊張感惹起手段として採用した構成要素には、天板部T1の素材および形状、天板部T1の内部空間TSに設けた発光ダイオードLを主体とする照明機構などを挙げることができる。

【0105】天板部T1は、デスクDと同様にアルミダイキャストにより厚みのあるボックス状に一体成形され、その鋳肌部分を外部に表出させたものである。金属が人間に視覚或いは触覚を通じて与える堅牢さ、未来感と、当該天板部T1のボックス状の形態とが相まって、天板部T1の近傍の定位位置に存する人間にハイテンション状態を引き起こす緊張感惹起手段としての役割を担い得る。しかも、アルミの柔らかさ、暖かさゆえに、適度な心地よい緊張感を惹起させることができる。特に、アルミダイキャストの場合、鋳肌は一体的な存在感があるため、本物感、本物指向を醸成するという点で本発明の知的生産性向上手段たり得る。本実施形態においてテーブルTの外観上の主要部をなすアルミダイキャスト製の部分、すなわち天板部本体T3及び脚本体T21は、テーブル全体の過半数を占めており、その鋳肌を外面に表出させているため、本物感に溢れた印象を看者に与えることが可能になる。そのため、このテーブルTによって、天板部T1の近傍の定位位置に存するものに高質感をもたらすことになり、スタッフのやる気と集中を引き出す効果的な緊張感惹起手段となり得る。

【0106】照明機構は、前述したとおり天板部本体T3の内部空間TSに配した発光ダイオードLと、この発光ダイオードLに電力を供給し且つその給電状態を切り換える機能を備えた制御部たる制御ボックスTCを備えたものである。この制御ボックスTCにより発光ダイオードLを点灯又は消灯させるとき、視野空間の定常状態が壊され、このときの変化はビビッドに天板部T1近傍の定位位置に存する者の心や頭脳に働いてこれらを活性化するため、このようなビビッドな変化の中にいる者にヒントを得、修正し、発想する力を誘発させることがで

き、スイッチングを伴う照明機構は緊張感惹起手段としての役割を担い得る。

【0107】これに対して、本実施形態においてリラックス感惹起手段として採用した構成要素には、天板部T1の造形部分、照明機構、ガラス板T4などを挙げることができる。

【0108】天板部T1は、前述したように、その周縁部の一つである使用端T1aに、膨出部T7、T9と凹陥部T8からなる波形状の曲線部分を造形したものである。このような造形は人間に自然界、自然美を感じさせ、これにより人間を自然に回帰させ、自然界の摂理に近づけさせるとともに、自然によって包み込むことで定位位置に存する者に気持ちの良い安らぎの感覚を覚えさせることができるため、かかる造形は本発明のリラックス感惹起手段としての機能を営み得る。特に、波の形態は生命誕生の起源である海への回帰を連想させるため、具体的かつ直接的に人間の感性に訴え得るものである。

【0109】照明機構は、上記のように緊張感惹起手段を構成するものではあるが、同時にリラックス感惹起手段としての機能をも持ち併せる。光も、点灯状態が維持されれば光の持つ本来の暖かさにより人間に生理的な安定をもたらすため、リラックス感を惹起させて集中力を高める精神的土壌を形成する上で奏功する。消灯状態が持続する場合にもこれに準じた事が言える。

【0110】ガラス板T4は、前述したように青系統のものであり、川や海、空を連想させて開放的な雰囲気醸成する上に、生理的、心理的にも、精神を沈静化、安定化させる作用、集中力を促進させる作用なども営むため、リラックス感惹起手段として機能し得る。特に、青系統の色に、地中海ブルー又はコードグジュールブルーを採用すると、世界的に有名なリゾート地の開放感あふれる雰囲気を醸し出すことができるため、リラックス感惹起手段としての機能はより高められるものとなる。

【0111】本実施形態の知的生産性向上手段は、以上説明した緊張感惹起手段及びリラックス感惹起手段を主体として構成されるものである。

【0112】このようにして、天板部T1を利用して構成される本実施形態の知的生産性向上手段は、人間に知的集中力をアップさせるための外的影響や刺激を与える上に、厚みのある天板部T1それ自体が存在感のある本物指向を醸成するため、人間の心や体に働いて創造性の回復、更なる飛翔へと誘う誘因を効果的に作り得るものとなる。特に、天板部T1で会議等を行う場合等は、利用者が定位位置において継続的に天板部T1と対面するので、このようなリズムを継続的に惹起させ易い上に、天板部T1は厚みを有したボックス状をなしているため、それ自体に知的生産性向上を刺激するための本物指向を醸成する作用があるだけでなく、当該天板部T1以外の知的生産性向上手段の構成部材である照明機構、音響システム等を仕込むスペースとしても有効に活用すること



ができ、知的生産性を刺激する環境を無理なく有効に整えることが可能になるという優れた効果を奏するものとなる。

【0113】また、以上のような緊張感惹起手段やリラックス感惹起手段を用いると、机に就いた状態で、目線の移動に応じて、波状をなす天板部T1の使用端T1aからリラックス感を惹起され、アルミダイキャストの鋳肌から緊張感を惹起され、背系統のガラス板D4からリラックス感を惹起されるといった具合に、天板部T1近傍の定位置に存する者がハイテンション状態とリラックス状態とを交互にリズムカルに引き出されるようになる。このような作用は、利用者が意図的に一定の操作を行った場合も同様で、照明機構の操作部である制御ボックスTCを操作して発光ダイオードLを明滅させた際に緊張感が惹起され、その後点灯状態や消灯状態が維持された際にリラックス感が惹起されるといった具合に、自らをハイテンション状態とリラックス状態とに交互にリズムカルに引き込むことができる。

【0114】そして、このような緊張感とリラックス感とを定位置に存する人間に対して継続的に波のようにリズムカルに惹起させれば、やすらぎの中での集中力アップ、これによる知的生産性の向上を効果的に誘発することができ、オフィス空間においては「知的集約力と創造性」をバックアップするための天板付き家具として極めて有用なものになると同時に、ホームにおける書斎や家事室に適用した場合にも、家庭にクリエイティブな執務空間を有効に構築することが可能となる。

【0115】特に、天板部T1で会議等を行う場合等は、利用者が定位置において継続的に天板部T1と対面するので、このようなリズムを継続的に惹起させ易いものとなる。

<第4実施形態>次に、図35から図36に基づいて、本発明の知的環境構成用家具として構成されたサイドテーブルSについて説明する。

【0116】サイドテーブルSは、図35に示すように、サイドテーブル本体S1と、前記サイドテーブル本体S1の前面開口部S1aに引出し可能に設けた引出しS2とを具備している。そして、このサイドテーブルSは、図36に示すように、左右の側背構造体S3を突き合わせて接合することにより前記サイドテーブル本体S1の側面及び背面を囲う周壁S1bを形成し、その上端部側に前端部が緩やかに湾曲した天板S4を取り付けて前記サイドテーブル本体S1を構成している。この側背構造体S3も、前述した収納家具Cの側背構造体C3と同様、左右対称形状をなしている左右一対のもので、側板部S7と背板部S8とを一体にアルミダイキャストにより成形してその鋳肌を外面に表出させたものであり、これら両側背構造体S3の背板部S8同士を突き合わせて前記サイドテーブル本体S1の周壁S1bを構成している。

【0117】しかして、このサイドテーブルSにおいても、アルミダイキャストの地肌によって緊張感惹起手段としての機能が営まれ、またこのサイドテーブルS同士を隣接配置し、或いは図1に示すようにデスクDに隣接配置して使用した際に、前端部が隣接するサイドテーブルSやデスクDの前端部と協働してリラックス感惹起手段として機能する波形状を呈するものとなる。

【0118】以上、本発明の幾つかの実施形態について説明したが、各部の具体的な構成は、上述した実施形態のみに限定されるものではない。

【0119】例えば、知的生産性向上手段は、少なくとも上記緊張感惹起手段を構成する構成要素の一つ、あるいは上記リラックス感惹起手段を構成する構成要素の一つを具備しておけば足りる。また、これら緊張感惹起手段やリラックス感惹起手段に属しないか、或いは明確に分類できないものであっても、五感ないし六感を通じて生理的、心理的に人間に知的生産性を向上させる刺激を与え得るものは、本発明の知的生産性向上手段たり得る。例えば、個人個人を無邪気で無我夢中な状態に引き込み、立場や役割などのしがらみから解放し、我を忘れて集中させられるような刺激を与え得る手段は、本発明の知的生産性向上手段たり得る。また、知的闘いの場にふさわしい、アクティブで能動的な存在を感じさせるような刺激を与え得る手段も、本発明の知的生産性向上手段たり得る。さらに、個人の舞台を浮き彫りにし、同時に全体としてハーモナイズされる空間を形成するような固有性と共振性を与える手段も、本発明の知的生産性向上手段たり得る。さらにまた、情報が停滞せず、世界と繋がっている感覚を覚えさせるような手段も、本発明の知的生産性向上手段たり得る。

【0120】その他の構成も、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【0121】

【発明の効果】本発明は、以上説明した知的環境構成用家具を採用するにより、オフィスワーカーのクリエイティビリティを効果的に刺激し、これによる知的生産性の向上を通じて今後の企業に要求される「知的集約力と創造性」を有効にバックアップする環境を提供することができるという優れた効果が奏される。また、これにより、家庭にクリエイティブな執務空間を構築したいという要望にも有効に応えることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の知的環境構成用家具を集合させたオフィス空間を示す図。

【図2】本発明の第1実施形態に係るデスクの全体斜視図。

【図3】同分解斜視図。

【図4】同正面図。

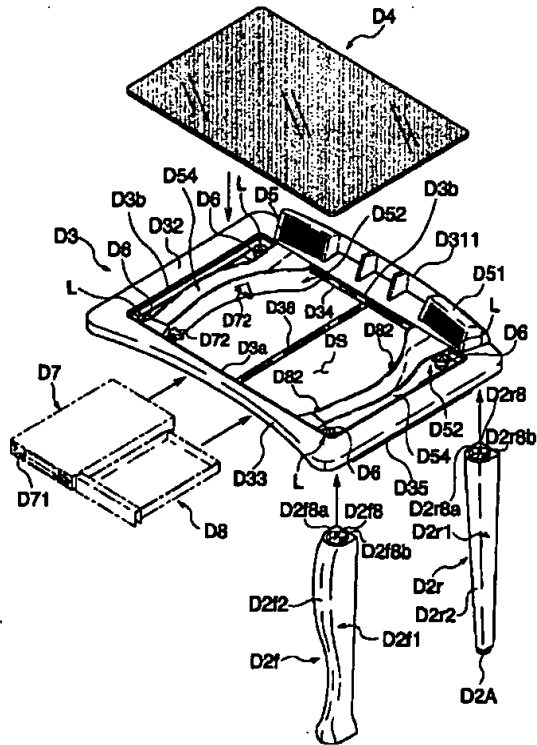
【図5】同側面図。

【図6】同天板部の平面図。

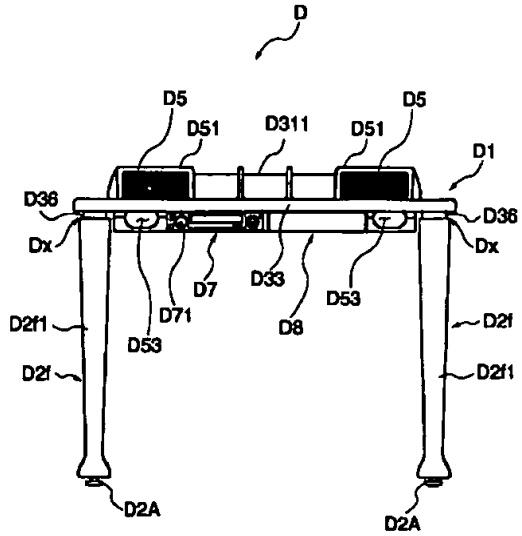




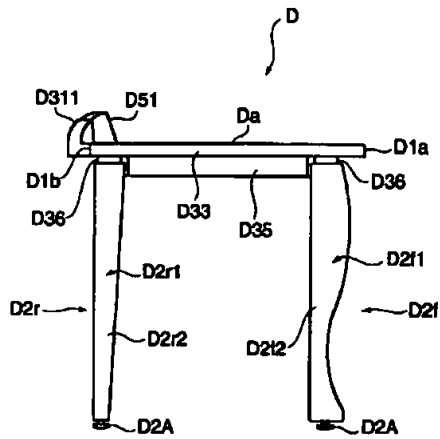
【図3】



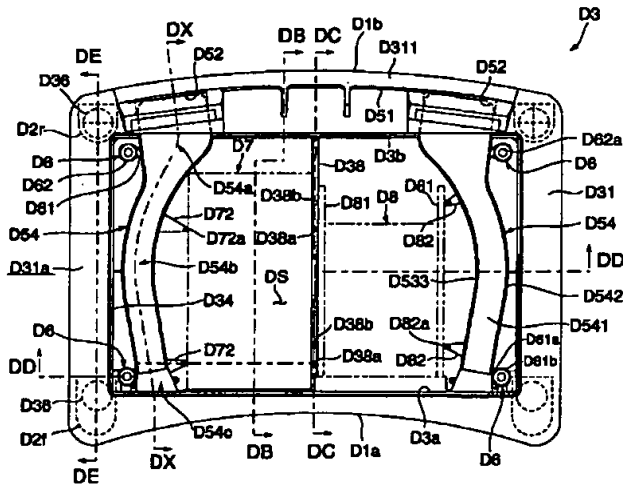
【図4】



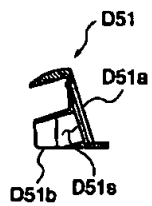
【図5】



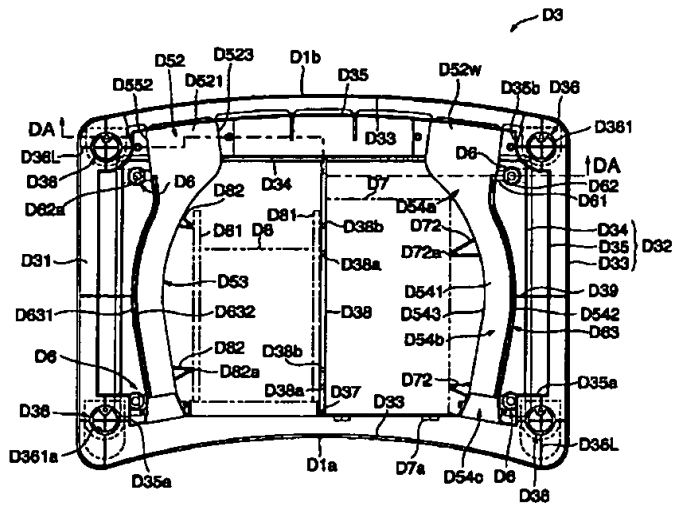
【図6】



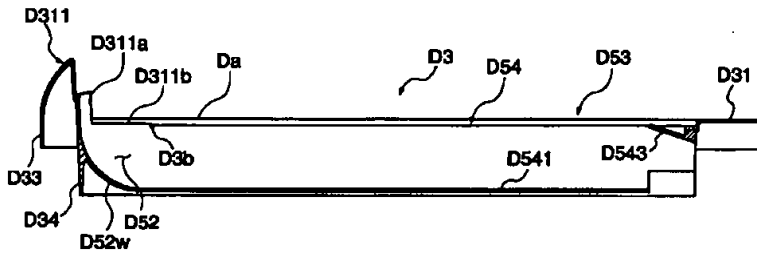
【図9】



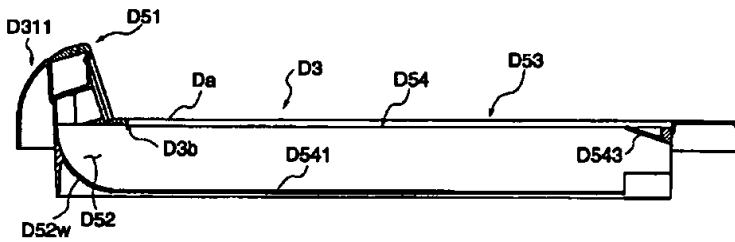
【図7】



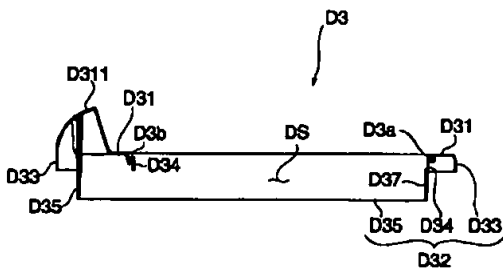
【図8】



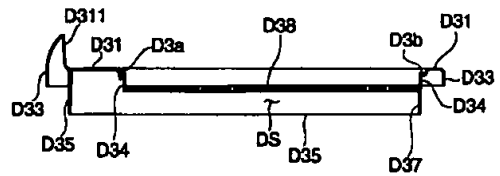
【図10】



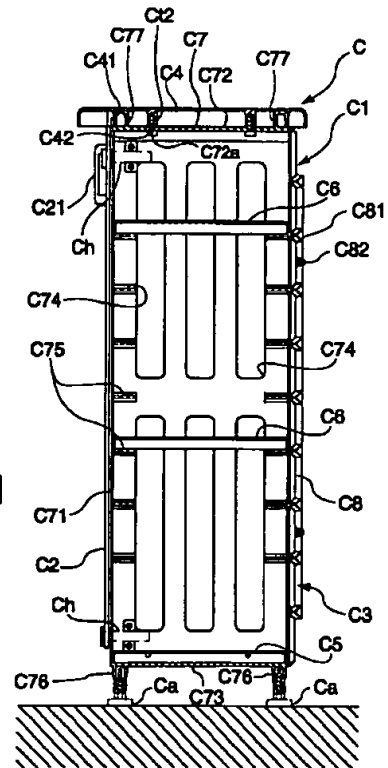
【図11】



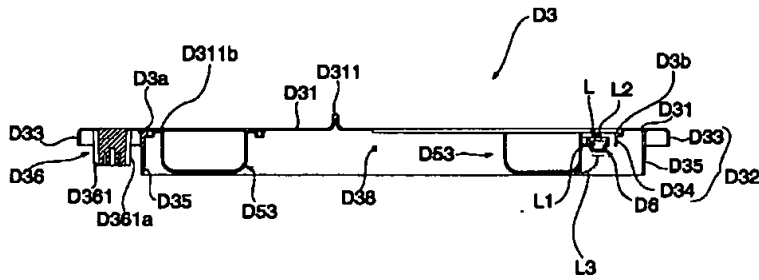
【図12】



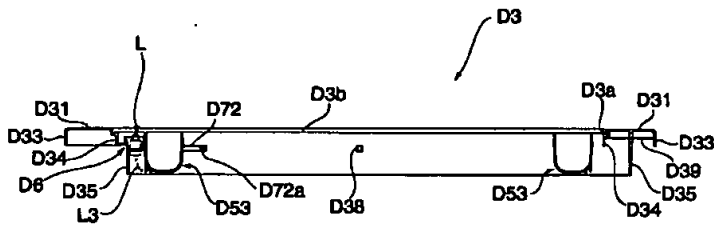
【図24】



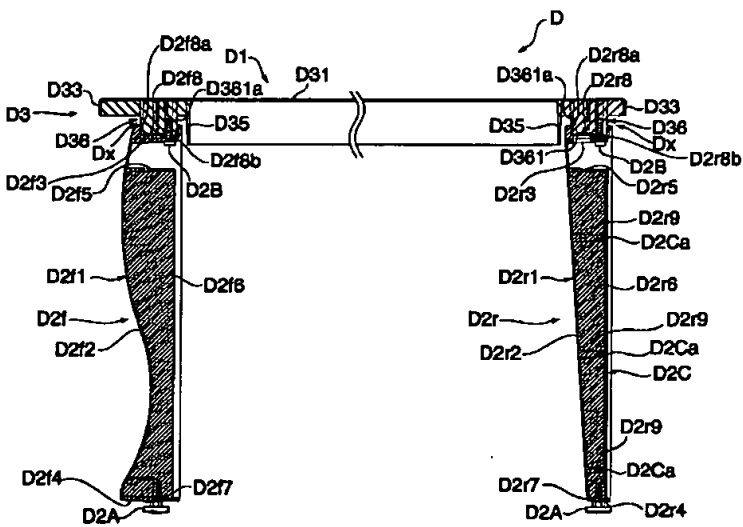
【図13】



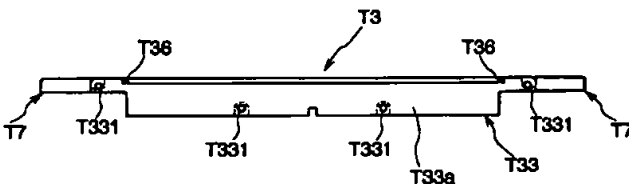
【図14】



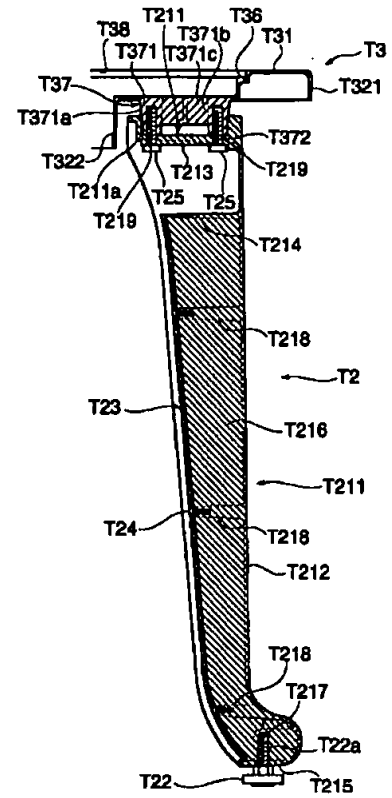
【図15】



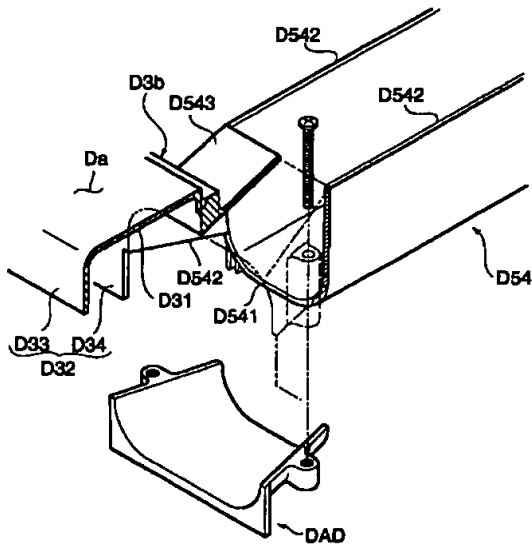
【図32】



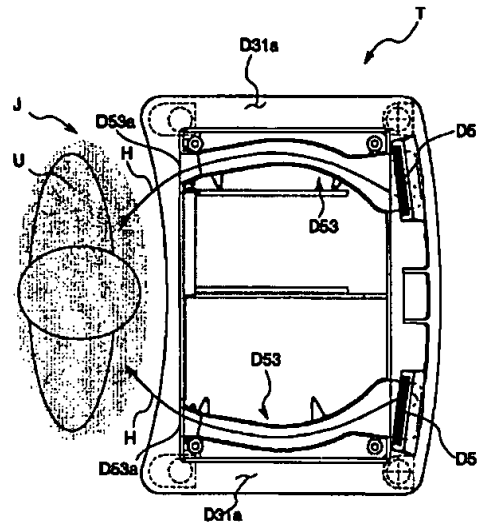
【図33】



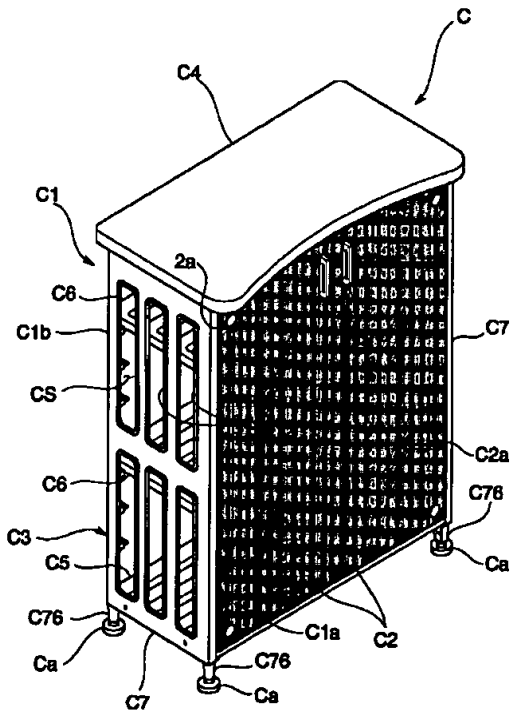
【図16】



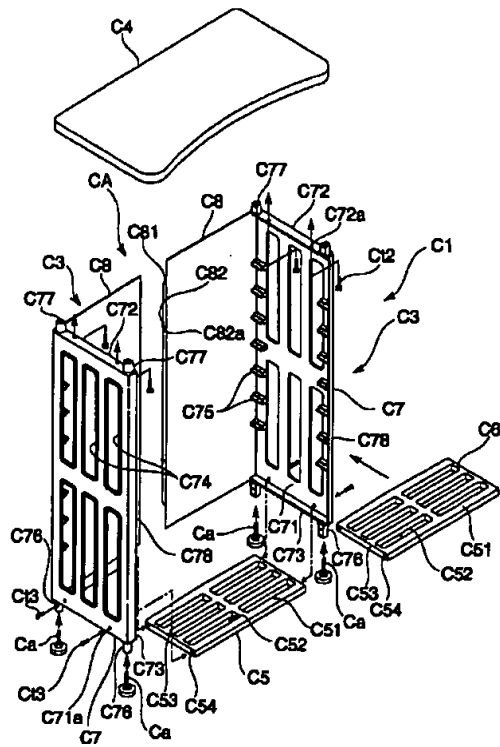
【図17】



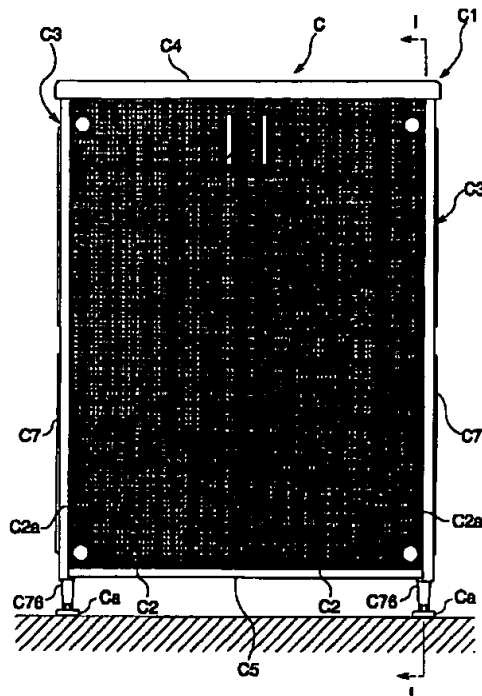
【図18】



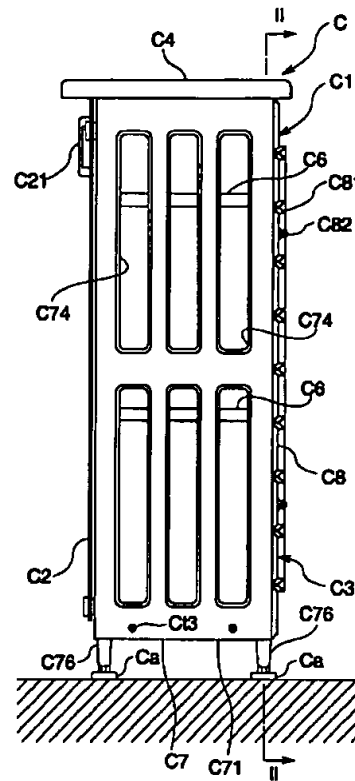
【図19】



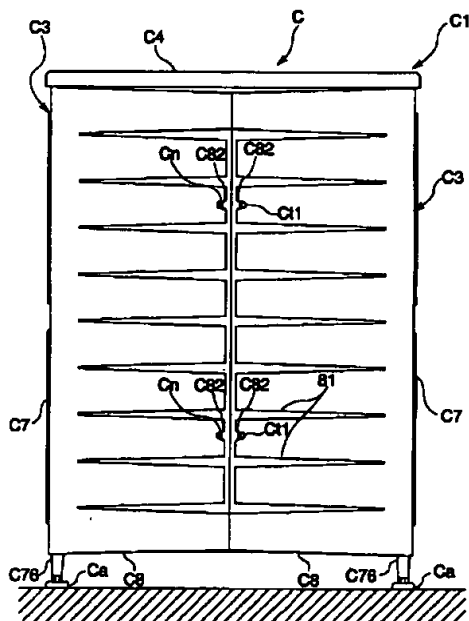
【図20】



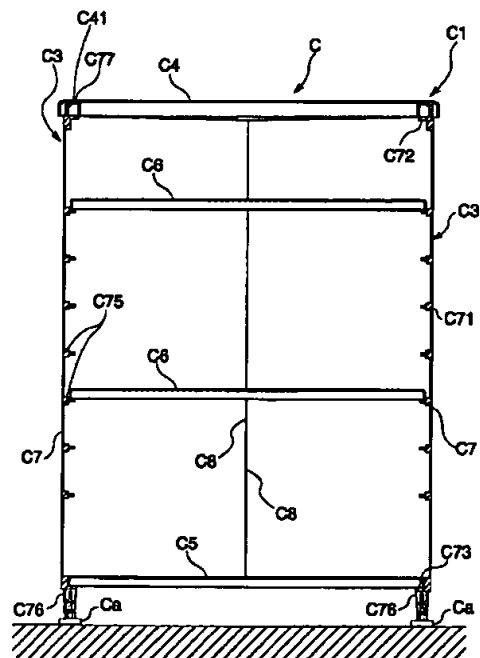
【図21】



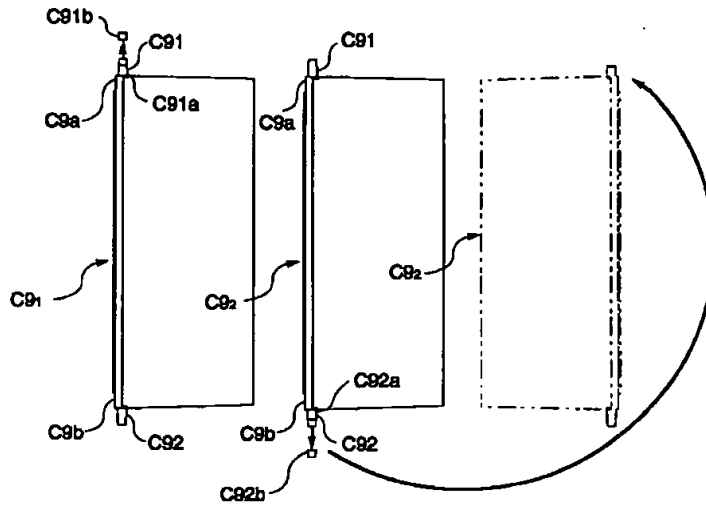
【図22】



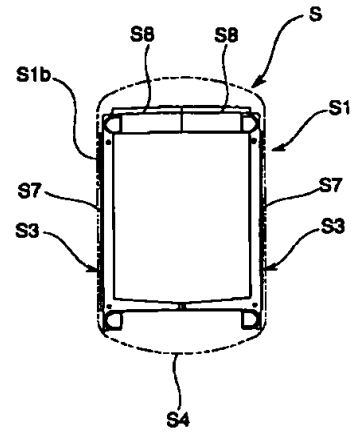
【図23】



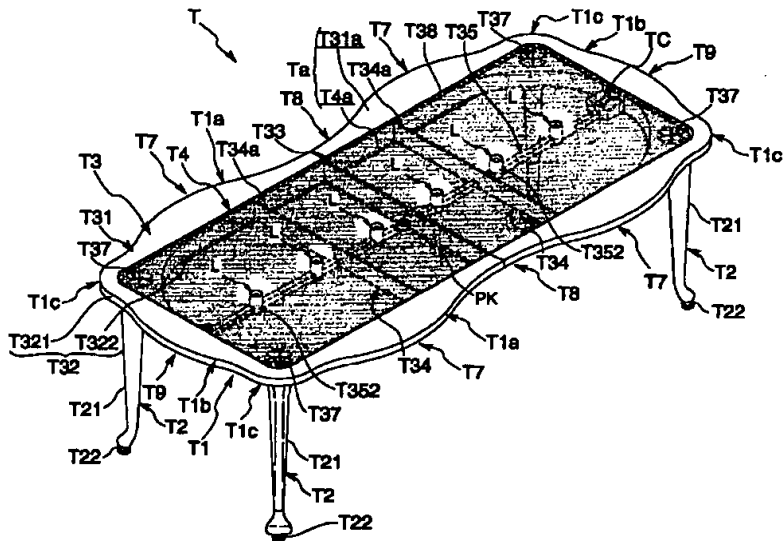
【図25】



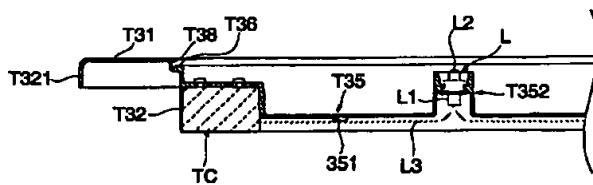
【図36】



【図26】



【図34】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☒ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**